

専攻科保育専攻

授業科目	方法	必修	選択	年次	期
幼児英語指導法	講義		2	2	前
実践コンピュータ	演習	2		1	後
幼児国語	講義		2	1	
幼児算数	講義		2	2	後
幼児生活	講義		2	1	後
音楽研究Ⅰ	演習	1		1	前
音楽研究Ⅱ	演習		1	1	後
図画工作研究Ⅰ	演習	1		1	前
図画工作研究Ⅱ	演習		1	1	前
体育研究Ⅰ	演習	1		2	前
体育研究Ⅱ	演習		1	2	
保育内容(表現音楽)研究Ⅰ	演習	2		2	前
保育内容(表現音楽)研究Ⅱ	演習		2	2	後
保育内容(表現造形)研究Ⅰ	演習	2		2	後
保育内容(表現造形)研究Ⅱ	演習		2	2	
保育内容(人間関係)研究	演習	2		1	後
保育内容(環境)研究	演習		2	1	前
保育内容(言葉)研究	演習		2	1	前
保育原理特論	講義	2		1	前
保育職特論	講義	2		2	後
保育経営論	講義	2		1	後
心身の発達と学習過程	講義	2		1	後
特別支援教育特論	講義		2	2	後
カリキュラム特論	講義		2	2	前
臨床心理学特論	講義		2	1	後
保育児童(子育て)相談	講義	2		2	前
子どもと道徳	講義		2	1	
ホスピタリティ論	講義	2		2	後
障害福祉論	講義	2		2	後
子ども家庭援助技術特論	講義		2	2	前
子ども家庭福祉特論	講義	2		1	前
世代間交流論	講義		2	2	前
保育者看護論	講義		2	2	前
児童文化研究	講義		2	1	後
保育実践特別研究Ⅰ	演習		2	1	前
保育実践特別研究Ⅱ	演習		2	1	後
保育実践特別研究Ⅲ	演習		2	2	前
保育実践特別研究Ⅳ	演習		2	2	後
修了研究Ⅰ	演習	2		1	前
修了研究Ⅱ	演習	2		1	後
修了研究Ⅲ	演習	2		2	前
修了研究Ⅳ	演習	2		2	後
文書講読プレゼンスキル演習	演習		2	1	前
生涯スポーツ	演習		1	2	後
芸術論	講義		2	2	後

講義科目名称： 幼児英語指導法	授業コード：
英文科目名称： Teaching English to Children	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期				
担当教員				
ロベージュ ルーク Luc Roberge				

授業概要	<p>This course is designed to give students a brief introduction to the skills needed to teach English to young learners. Students will practice leading and designing songs, games and exercise. Also, focus will be on adapting and developing appropriate teaching materials. Students will acquire teaching skills through hands-on practice. Students will become familiar with popular EFL teaching resources. Students will also practice planning their own games and activities and presenting them to the class. One main focus of the course will be adapting print materials, such as children's books, for maximizing language acquisition. Students that excel at course work and peer-teaching will have the opportunity to teach at a pre-school or for an elementary-aged English program.</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解 (文化、社会、自然、等)	Students will be introduced to the basics of EFL teaching in Japan: curriculum, lesson planning, task planning, language acquisition, teaching materials.	Classwork	20%
汎用的技能 (コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	Students will work in groups to teach songs, learning tasks, games, flash cards and books.	Mini Teaching	20%
態度・志向性 (自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)	Students will work in groups to teach songs, learning tasks, games, flash cards and books.	Mini Teaching	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	Students will work on book reading project and will develop and deliver a story with the purpose of fostering	Presentation	40%

	EFL language acquisition.		
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
Classwork 20%, Flashcards 10%, Flash card – teaching 10%, Song teaching 10%, Book Reading 25%, group project 25%.			
Students will be required to access class materials via NJC Qlearn. For this, they will need to register which requires a GMAIL account.			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	Introduction to the course	The course, learning goals, expectations, and evaluation will explained. Students will register for an NJC Qlearn account and register for the course.	Students should make a Gmail Account prior to coming to class.
2回目	Learning Groups and Curriculum	Students will make learning groups. To gain a greater understanding of curriculum development, students will develop an EFL language curriculum plan and discuss rationale	Students should register for NJC Qlearn, prior to coming to class.
3回目	Songs 1	Students will explore popular songs used for language learning. Students will learn to critically analyze song choices for teaching.	Students should review songs provided on NJC Qlearn.
4回目	Songs 2	Students will explore popular songs used for language learning. Students will learn where to access songs and other resources that can be used in the language classroom	Students should review songs provided on NJC Qlearn.
5回目	Songs 3	Students will learn, prepare and teach a song to their peers.	Students should prepare their song prior to class.
6回目	Books 1	Students will explore popular children's books commonly used for English teaching in Japan. Students will focus	None

		on selecting books/ or adapting books to be age and language-level appropriate.	
7 回目	Books 2	The teacher will explain the book reading project. The focus of the project will be on selecting books/ or adapting books to be age and language-level appropriate. Students will practice using speaking qualities and other strategies to enhance language acquisition.	None
8 回目	Flash Cards 1	Students will explore the use of visual aids, specifically flash cards, to help in vocabulary acquisition. Students will explore strategies for maximizing student comprehension and vocabulary acquisition.	None
9 回目	Flash Cards 2	Students will choose target vocabulary and create their own effective teaching materials.	None
10 回目	Flash Cards 3	Students will peer teach using their own flash cards. Students will further explore effective use of flashcards.	Students should prepare their own flash cards as described in class. Students should also practice teaching target vocabulary using their original materials
11 回目	Games 1	Students will how games can be use to present, practice target language. Bingo, mystery box, memory	None
12 回目	Games 2	Students will how games can be used to present and practice target language. Bingo, mystery box, memory	None
13 回目	Course Work 1	Students will work finishing all class assignments and prepare for the book reading assignment.	None
14 回目	Course Work 2	Students will work finishing all class assignments and prepare for the book	Students should prepare and bring materials as

		reading assignment.	necessary.
15 回目	4-Corner presentations	Students will read their books to peers using the 4-corner presentation format. Students will submit their book reading project, flashcards.	Students should be ready to read their book and submit all class work.
16 回目	定期試験	NONE	

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	None
履修上の注意	
オフィスアワー	None (I will make myself available after weekly lessons)
備考・メッセージ	I'm looking forward to learning together.

講義科目名称：実践コンピュータ	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	2	卒業：必修 幼一 免：選択	
担当教員				
小浦康平				

授業概要	Word、Excel、PowerPoint について、保育現場における一般的な使い方をマスターする。社会人として現代社会の問題解決について意識する。自由課題に対しパソコンを用いてオリジナルリポートを画面上に表現する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	Word、Excel、PowerPoint について、保育現場における一般的な使い方をマスターし、抵抗なく利用することができる	課題提出	35%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	Society5.0 や ICT、SDGs などの意味を理解し、現代社会の問題解決を意識することができる。	ディベート参加	5%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	集中して授業課題に真剣に向き合うことができる。	受講態度、意欲、関心	0%
総合的な学習経験と創造的思考力	最終課題を完成させ、仲間の前で伝えるようにプレゼンテーションを行うことができる。	最終課題提出	60%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

休んだ場合も課題を提出すること。(評価に影響するため)

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	パソコン基本操作の復習、各種設定、ファイル保存、タッチタイピング、長文入力、簡単なイラストテクニック	学習課題 復習：パソコンの基本操作を復習したあと、大学内でのファイル保存場所の確認や、ホームポジションを意識したタッチタイピングの練習を行う
2回目	Excel①	関数を使った表計算、グラフの加工	セル入力に慣れる、よく使う関数、様々なグラフなどの知識を増やす
3回目	Excel②	関数を使った表計算、グラフの加工	表の加工、Excelの日付の仕組み、適切なグラフについて考える
4回目	Excel③	関数を使った表計算、グラフの加工	実践練習を行う
5回目	論文体験	論文の書き方を体験する、ICT・プログラミング・インターネット・SDGsについて考える	論文の構成の仕方について考える
6回目	園だより①	Wordの復習としてデザインを意識して園だよりを作成する	様々なテクニックを応用した園だよりを完成させる
7回目	園だより②	Wordの復習としてデザインを意識して園だよりを作成する	様々なテクニックを応用した園だよりを完成させる
8回目	表を使ったレイアウト	Wordで表を使ってレイアウトしながらポスターを作成する	テーブルレイアウトの効果的な使い方を考える
9回目	写真の活用実践①	最終課題作成準備、写真の撮り方のコツ、パソコンでの取り扱い方、	スマートフォンとパソコンの連携について考える
10回目	写真の活用実践②	Wordを使った最終課題を作成する	予習として、最終課題に向けた調査をしてくる
11回目	写真の活用実践③	Wordを使った最終課題を作成する	大まかなレイアウトや色の使い方を考える
12回目	写真の活用実践④	Wordを使った最終課題を作成する	書体やディテールにこだわった作り込みを行う
13回目	写真の活用実践⑤	Wordを使った最終課題を作成する	仕上げ、最終調整を行う
14回目	PPT①	PowerPointを使った最終課題を作成	プレゼンテーションのスト

		する	ーリーを意識してスライドを完成させる
15 回目	発表会	プレゼンテーション発表会を行い、振り返り、改善点を考える	
16 回目			

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：毎回、プリントを配布
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業期間中の平日の昼休みや放課後など
備考・メッセージ	<p>授業資料参考 URL：持続可能な開発目標 S D G s エス・ディー・ジーズとは (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html)</p> <p>授業資料参考 URL：QSP ハイブリッドアプリ開発実習用教材 (https://www1.niu.ac.jp/platform/2956.html)</p>

講義科目名称：幼児算数	授業コード：45262
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	選択	講義
担当教員				
大久保 敬次				

授業概要	講義と演習を通して遊びの中で数学的活動の取り入れ方や進め方を学ぶ
------	----------------------------------

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園及び認定こども園の教育・保育要領と小学校学習指導要領の関連・系統について研究する能力を習得する ・数学的活動について小学校教育との接続、幼児期の終わりまでに育てる内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発問への反応 	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習から授業参観後の考察ができる ・幼児期の知的発達と数学的教材の系統を理解し指導計画を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	40%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	グループ内で協力し、確実に課題解決策をまとめることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加態度 ・グループ発表 	40%
総合的な学習経験と創造的思考力			
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義内容、受講上の心構え、態度の説明をする	
2回目	幼児期の発達Ⅰ	幼児期の知的発達の特徴について説明する	
3回目	幼児期の発達Ⅱ	幼児期の知的発達の特徴について説明する	
4回目	教育要領・指導要領の研究Ⅰ	幼稚園教育要領と保育所保育指針を理解する	
5回目	教育要領・指導要領研究Ⅱ	認定こども園教育要領と小学校学習指導要領を理解する	
6回目	幼稚園と小学校Ⅰ	数学的教材の系統と指導内容を理解する	
7回目	幼稚園と小学校Ⅱ	数学的教材の系統と指導内容を理解する	
8回目	幼稚園と小学校Ⅲ	数学的教材の系統と指導内容を理解する	
9回目	小学校算数授業内容	小学校1年生算数学習内容と幼稚園を比較する	学習指導案を作成する
10回目	小学校算数授業観察	小学校1年算数の授業参観により様子を観察する	授業参観レポートを作成する
11回目	指導法の研究Ⅰ	保育所・幼稚園での数学的教材の生かし方を考える	
12回目	指導法の研究Ⅱ	保育所・幼稚園での数学的教材の生かし方を考える	
13回目	指導法の研究Ⅲ	保育所・幼稚園での数学的教材の生かし方を説明する	数学的活動を取り入れたレポートを作成する
14回目	指導法の研究Ⅳ	保育所・幼稚園での数学的教材の生かし方を説明する	数学的活動を取り入れたレポートを作成する
15回目	研究のまとめ	研究結果をまとめる	
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書・参考書は使用せず担当者が資料を用意する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：幼児生活	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	選択	講義
担当教員				
花城 千尋				

授業概要	<p>授業では、以下の事項を踏まえ、子ども・保護者支援を担う保育者に求められる専門的な知識や技能を様々な演習を通して習得することを目標とする。</p> <p>①子どもがあそびや環境から培うものを学ぶ。</p> <p>②子どもの成長を踏まえ、子どもの生活の連続性を学ぶ。</p> <p>③講義の後半では、事例検討やグループワークを通していろいろな考え方があることを知り、保育者に求められる専門性・自身の保育観について深めていく。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然等）	現代の子どもを取り巻く社会的背景に常に関心を持ち、保育者としての知識を深めることができる。	レポート課題	10%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	子ども・保護者の変化に「気づく」ことができ、保育者として専門性のある支援ができる。	グループワーク	10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等）	自身の知識、経験を基に、職員・関係機関と協力・連携しながら問題解決ができるようなスキルを身につける。	グループワーク	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	自身の保育観を高めることができる。	グループワーク レポート課題	10% 60%
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のねらいと進め方について	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	幼児生活とは	子どもの24時間をとらえる (家庭生活～社会(園)生活～家庭生活)	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
3回目	乳幼児の成長	子どもの成長の過程を振り返りながら、健康な心と体について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
4回目	子どもと家族・子どもと社会のかかわり	子どもの社会生活について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
5回目	子どもと自然	子どもの自然との関わり・生命の尊重について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
6回目	子どものあそび①	子どもの自立心について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
7回目	子どものあそび②	子どもの協同性・道徳性・規範意識の芽生えについて考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
8回目	子どものあそび③	子どもの言葉による伝え合いについて考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
9回目	子どものあそび④	子どもの豊かな感性と表現について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
10回目	子どものあそび⑤	子どもの数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
11回目	子どもとあそぶ保育者の視点	子どもと一緒に心と体を動かすこと、あそび・生活への保育者のかかわり方を考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる
12回目	保育者としてのかかわり	子ども・保護者・地域への保育者としての関わりについて考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことをまとめる

13回目	小学校につなげる (あそび・生活)	子どもの小学校での育ちや学び、 園生活で遊びを通した学びのつな がりを考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことを まとめる
14回目	チームで保育を行うと いうこと	保育者として組織の一員としての 役割について考える 園生活の連続性について考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことを まとめる
15回目	保育観を高める	子どもとのかかわり方、自身の保 育観、今後の幼児教育のあり方に ついて考える	予習：配布資料を読む 復習：授業で学んだことを まとめる

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	テキスト：必要に応じて資料を配布します。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します
備考・メッセージ	授業の最後に次回の授業内容のプリントを配布します。事前に目を通し 授業内容の把握をした上で授業に臨んでください。

講義科目名称：音楽研究 I	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1	必修	演習（単数）
担当教員				
友廣 憲子				

授業概要	①移調を理解する。②子ども達が歌いやすい調に移調できることを目標とする。 ③童謡曲の弾き歌いを学習する。④リズム感覚をさらに鍛える学習を行う。 ⑤時代に応じた作曲者の曲を学習する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・移調を理解し、与えられた調に移調できる。 ・童謡の弾き歌いができる。 ・課題曲を演奏することができる。 	実技試験 実技試験 実技試験	20% 30% 30%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	課題曲演奏のためのリズム学習に意欲的に取り組むことができる。	授業への参加・態度	10%
主体的に学ぶ力	課題を練習してレッスンを受講することができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	移調を理解する	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:ハ長調の課題を練習する。
2回目	移調	曲をハ長調に移調する①	復習:授業内容を再度確認し、練習する。

			予習:変ロ長調の課題を練習する。
3回目	移調	曲を変ロ長調に移調する②	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:二長調の課題を練習する。
4回目	移調	曲を二長調に移調する③	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲の課題を練習する。
5回目	童謡の弾き歌い	童謡曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲課題を練習する。
6回目	童謡の弾き歌い	童謡曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲の課題を練習する。
7回目	童謡の弾き歌い	童謡曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲の課題を練習する。
8回目	実技試験	移調と童謡の弾き歌い実技試験	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
9回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。
10回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。
11回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。
12回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。
13回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。
14回目	課題曲	時代に応じた曲(自由曲)のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:自由曲課題を練習する。

15回目	実技試験	課題曲の実技試験	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:
16回目			

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	プリントが必要な時はこちらで準備します。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：音楽研究Ⅱ	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1	選択	演習（単数）
担当教員				
友廣 憲子				

授業概要	①様々なジャンルのピアノ連弾でアンサンブル力を養う。 ②童謡の弾き歌いの技術力を高める。 ③リズムトレーニングを行いリズム感を育成する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・童謡曲の歌詞を楽しみながら歌うことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識 や技能	・童謡課題曲の弾き歌いができる。 ・連弾曲を演奏することができる。 ・①と②の連弾曲を演奏することができる。	実技試験 実技試験 実技試験	20% 30% 30%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	課題曲演奏のためのリズム学習に意欲的に取り組むことができる。	授業への参加・態度	5%
主体的に学ぶ力	課題を練習してレッスンを受講することができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	音楽研究Ⅱの内容と課題について説明する。	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲課題に取り組む。
2回目	童謡曲 リズム	童謡曲とリズムトレーニング	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:童謡曲に取り組む。
3回目	童謡	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。

	連弾		予習:連弾課題曲に取り組む。
4回目	童謡 連弾 リズム	童謡曲と連弾曲のレッスン リズムトレーニング	復習:リズムトレーニングの復習をする。 予習:連弾課題曲に取り組む。
5回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:童謡連弾曲課題を練習する。
6回目	童謡 連弾 リズム	童謡曲と連弾曲のレッスン リズムトレーニング	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
7回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
8回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
9回目	実技試験	童謡曲と連弾曲 実技試験	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
10回目	童謡 連弾 リズム	童謡曲と連弾曲のレッスン リズムトレーニング	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
11回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
12回目	童謡 連弾 リズム	童謡曲と連弾曲のレッスン リズムトレーニング	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
13回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
14回目	童謡 連弾	童謡曲と連弾曲のレッスン	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習:課題に取り組む。
15回目	実技試験	童謡と連弾曲2曲の実技試験	復習:授業内容を再度確認し、練習する。 予習
16回目			

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	必要に応じてプリントはこちらで準備します。
履修条件	音楽研究Ⅰを履修しておくこと。

履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	練習を習慣化することが大切です。

講義科目名称：図画工作研究 I	授業コード：15161
英文科目名称：	ナンバリング AC102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	必修	演習 単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	子ども達が登場する理想的な空間を想像しながら、幼児教育への夢を構築し、これをテーマとしながら紙粘土などを材料に箱庭を制作していく。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで、表現の内容や方法のあり方を確かめていく。また、この作品発表を行う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・基本的な造形(絵画)技術と造形(絵画)原理を習得する	作品の成果	20%
	・幼児に伝えたいメッセージ内容を具現化(絵画と言葉によって)することができる	作品の成果	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)			
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)	・幼児と接していく豊かな情操を獲得する	学修の取り組み	20%
	・保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる	作品の成果	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる	作品の成果	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーションと制作の目的について	箱庭の制作についての概要	予習：学科時代の図画工作について振り返りをおこなう 復習：表現について自己目標を立てる
2回目	箱庭の中の物語性について	箱庭の中に込めようとする理想的な空間の構想	予習：箱庭を用いた表現について思いをめぐらす 復習：現実ではない夢の世界を発想する
3回目	表現内容と自分の子ども観	子どもたちが登場する空間の中に盛り込む内容を考える	予習：自分の保育観・子ども観について思いをめぐらす 復習：子どもにどうあって欲しいか、思いをめぐらす
4回目	箱庭のアイデアスケッチ（全体）	箱庭全体の構想を考える	予習：箱庭の全体的な場面設定を想像する 復習：ここに展開する子どもたちの様子を想像する
5回目	箱庭のアイデアスケッチ（部分）	箱庭に登場する人物等のディテールを考える	予習：具体的な子どもたちの表情や動きを想像する 復習：制作の表現方法について構想する
6回目	お互いのアイデアスケッチについてのディスカッション	自分の表現の意図を伝え他者からの意見を聞く	予習：自分のアイデアスケッチを客観的に見直す 復習：他者の意見の意図やイメージを振り返る
7回目	アイデアスケッチの修正	他者からの意見を踏まえスケッチを修正する	予習：他者の意見も参考にした修正案を模索する 復習：表現への意欲を高める
8回目	粘土成形と着彩①	紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考え

			る
9回目	粘土成形と着彩②	紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える
10回目	粘土成形と着彩③	紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える
11回目	粘土成形と着彩④	紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える
12回目	箱庭の空間制作①	様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える
13回目	箱庭の空間制作②	様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える
14回目	箱庭の空間制作③	様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく	予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこなう
15回目	箱庭の展示発表	子ども観を詩にしたため、作品に添えて展示発表をおこなう	予習：詩の構想を考える 復習：子ども観を伝えるこ

			との大切さを考え
--	--	--	----------

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること

講義科目名称：図画工作研究Ⅱ	授業コード：54161
英文科目名称：	ナンバリング AC103

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習 単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	市販の絵本の中に込められているメッセージ内容を分析した上で、自らが子ども達へ伝えたい内容を構築しながら、お話の創作から画面制作へと進む。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで表現方法のあり方を確かめていく。また、この読み語り発表を行う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・基本的な造形(絵画)技術と造形(絵画)原理を習得する	作品の成果	20%
	・幼児に伝えたいメッセージ内容を具現化(絵画と言葉によって)することができる	作品の成果	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)			
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)	・幼児と接していく豊かな情操を獲得する	学修の取り組み	20%
	・保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる	作品の成果	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる	作品の成果	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーションと制作の目的について	絵本の創作についての概説と市販の絵本の紹介	予習：自分が好きな絵本を持ってくる 復習：絵本の良さについて考える
2回目	絵本の与えるメッセージ性について	お話の中に込められているメッセージ内容の構想	予習：自分や級友の紹介した絵本が伝えるメッセージ性について考える 復習：自分が絵本で伝えたいメッセージを考える
3回目	メッセージ内容の構想①	ストーリーの展開を考え、代表的な場面のラフスケッチを作る	予習：自分が作りたい絵本の概要を考える 復習：自分の作ったラフスケッチとメッセージ内容の関係を確かめる
4回目	メッセージ内容の構想②	お互いのストーリーについてのプレゼンとディスカッション	予習：自分のラフスケッチのプレゼンを考える 復習：級友からのアドバイス等を生かしながら構想を進める
5回目	メッセージ内容の構想③	お話のコマ割り	予習：具体的なお話の展開をイメージする 復習：コマ割りの修正を考える
6回目	メッセージ内容の構想④	コンテ制作とこれについてのディスカッション	予習：コマ割りの具体的修正をおこなう 復習：コマ割りを決定する
7回目	各画面のアイデアスケッチ（線描き）	ページのつながりを考えながら線描きをする	予習：作画のイメージを作り始める 復習：線描きの修正をおこなう
8回目	各画面のアイデアスケッチ（色彩構成）	ページのつながりを考えながら色彩構成をする	予習：色彩のページ展開を考える 復習：色彩構成の修正をおこなう
9回目	描画技法の工夫	メッセージ内容と絵のタッチを合わせるために描画材料や描画技法を工夫す	予習：描画をどのように進めるかイメージしていく

		る	復習：描画材料の吟味をおこなう
10回目	画面制作①	場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく	予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく
11回目	画面制作②	場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく	予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく
12回目	画面制作③	場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく	予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく
13回目	画面制作④	場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく	予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：描画表現の振り返りをおこなう
14回目	お話書き	ページごとに文字を入れていく	予習：文を画面のどこに入れるか再調整をおこなう 復習：お話を声に出して読む
15回目	絵本の発表	自作品の絵本の読み語りをおこない、声を出しての表現を試みる	予習：読み語りの練習をおこなう 復習：絵本の制作について振り返りをおこなう

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称：体育研究 I	授業コード：35162
英文科目名称：Seminar of physical education research I	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2	1	必修	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの体力と健康の関係、運動能力の発達について理解する ②幼児期運動指針の意義とポイントについて理解する ③運動指導における保育者の援助の在り方について理解する ④運動能力の測定・評価の方法と測定結果の活用方法について理解する ⑤運動遊びを企画する際の留意点について理解する
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる ・運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる 	課題レポート	40%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）			
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康に関心を持ちながら、運動することの意義について理解し、子どもの健全な育ちに寄与することができる 	授業への参加・態度	40%
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる 	課題発表	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
課題レポート 40%、課題発表 20%、授業への参加・態度 40%の割合で評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	・授業の進め方について学び、これまでの運動指導場面での課題を振り返る	予習：これまでの運動指導場面での課題をまとめる 復習：配布資料をもとに内容を振り返る
2回目	幼児期運動指針について	・幼児期運動指針の意義、ポイントについて学ぶ	予習：幼児期運動指針について調べる 復習：配布資料を参考に各概念の整理をする
3回目	運動発達と指導の基本方針について	・運動発達と運動指導の基本方針について学ぶ	予習：運動発達と運動の指導について調べる 復習：運動発達と運動指導の在り方についてまとめる
4回目	「遊びの中で進んで運動をする子どもを育てる」という考え方について	・内発的動機を高める環境について学ぶ	予習：進んで運動する環境について調べておく 復習：内発的動機を高める環境についてまとめておく
5回目	進んで運動する子どもを育てる保育と援助について①	・用具や遊具を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる	予習：これまで実践した運動遊びについて振り返っておく 復習：工夫して考えた運動遊びの構成をまとめておく
6回目	進んで運動する子どもを育てる保育と援助について②	・自然環境を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる	予習：自然環境を工夫した遊びの構成を考えてみる 復習：工夫して考えた運動遊びの構成をまとめておく
7回目	発達を支える多様な活動について①	・用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ	予習：様々な運動パターンを生み出す環境構成についてを考えておく 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる
8回目	発達を支える多様な活動について②	・用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ	予習：様々な運動パターンを生み出す環境構成についてを考えておく 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き

			出す方法についてまとめる
9回目	発達を支える多様な活動について③	・用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ	予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる
10回目	発達を支える多様な活動について④	・用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ	予習：様々な運動パターンを生みだす環境構成についてを考えておく 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる
11回目	幼児運動能力検査の実施・測定方法について	・MKS 運動能力検査の実施・測定方法について学ぶ	予習：運動能力検査の方法を調べておく 復習：検査の実施・測定方法のポイントについてまとめる
12回目	幼児運動能力検査の結果の処理と解釈および日常の保育への活かし方について	・結果の処理と解釈の方法と検査結果を日常の保育に活かす方法について学ぶ	予習：測定結果の活かし方について考えてみる 復習：検査結果を日常の保育に活かす方法についてまとめる
13回目	運動遊びの企画	運動遊びを企画し、指導案を作成する	予習：これまで実践した運動遊びをアレンジして考えてみる 復習：指導案に基づいて運動遊びが実施できるようにイメージをもつ
14回目	運動遊びの発表①	企画した運動遊びを発表し、相互評価する	予習：運動遊びの評価のポイントを調べておく 復習：自己評価を行い、内容を振り返る
15回目	運動遊びの発表②	企画した運動遊びを発表し、相互評価する	予習：運動遊びの評価のポイントを調べておく 復習：自己評価を行い、内容を振り返る

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：必要により資料を配布する 参考書：幼児期における運動発達と運動遊びの指導 杉原 隆・川邊貴子編 著 ミネルヴァ書房 ：幼児期運動指針 文部科学省
履修条件	
履修上の注意	実技の際は装飾品ははずし運動ができる服装を準備すること
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	普段の保育実践の中で、運動指導に関心を持ち、子どもの様子を観察しておくこと。

講義科目名称：保育職特論	授業コード：14262
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修	講義
担当教員				
安部恵美子				

授業概要	<p>保育職の意義と役割に関する理解を深めることを目的とする本授業では、まずは、保育職の法的位置づけと、3つの職務内容について確認する。その後、保育者の「感情労働」を取り上げて、他職種との比較しながら、保育職の仕事の特徴を考察する。また、現在の保育職の職務内容の理解を深めるために、保育職の歴史の変遷を辿り、先人の仕事について学ぶ。さらに、「チーム学校への対応」など、保育を巡る多様な現代的課題についての理解を深める。本授業を通じて、課題の解決策を提案できる保育職を目指した保育者のキャリア形成のあり方を、受講者間や教員とのディスカッションを通じて考察していく。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ○保育職の意義と役割について、理論と実践、両面の視点からの理解ができる ○保育職の仕事と「感情労働」の関係を理解できる ○保育職の成立の歴史や意義に関する理論を理解することができる ○興味を持った保育の先達について調べて発表することができる 	<p>4回目と8回目に提出したレポートの内容による評価</p> <p>14回15回目の発表資料の内容の評価</p>	<p>20%</p> <p>50%</p>
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	<ul style="list-style-type: none"> ○他の学生の発表内容について、質問し、自分の意見を述べるができる 	<p>授業の参加度やディスカッション時の積極性の評価</p>	10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なプレゼン資料作成のための工夫ができる 	<p>14回15回目のプレゼンテーション時の評価</p>	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者のキャリア形成について、資料に基づき意見を述べることができる 	<p>授業中のディスカッション時の態度や内</p>	10%

	きる	容を評価	
出席			受験要件 3分の2以上の出席
合計			100%
補足事項			
特になし			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保育職の意義と役割	保育制度と保育職 制度上の保育者（幼稚園教諭・保育士） の位置づけ及び、現状と課題	保育職に関連する法制度等 を確認しておく
2回目	保育職の現状	保育職の養成・求人採用・待遇・キャ リア形成	メディア等で広報される、 保育職に関する現代的課題 を探し、考えをまとめる
3回目	保育職の仕事	1. こどもの保育 2. 保護者の子育 での支援 3. 園務と保育者集団の協 働 3つの視点から捉える	保育の仕事についての体験 的な理解をまとめておく
4回目	保育職の仕事	1. こどもの保育 2. 保護者の子育 での支援 3. 園務と保育者集団の協 働 3つの視点から捉える	保育者間の協働（チーム学 校運営）のあり方について 考えておく ○保育職の仕事に関するレ ポート提出
5回目	保育労働の特質	感情労働とは何か	保育の仕事の特徴について 考えておく
6回目	保育労働の特質	保育者の感情労働 他職種との比較において	保育職と似ている職種、異 なる職種を考えておく
7回目	保育労働の特質	感情労働と保育職の専門性 ストラテジー（戦略）としての感情労 働の成立	保育現場での自らの感情労 働体験をまとめておく
8回目	保育労働の特質	感情労働と保育職の専門性 感情労働育成と保育職のキャリア形成	○保育職の感情労働に関す るレポート提出
9回目	保育職の歴史的変 遷	社会的保育の誕生と黎明期の保育者た ち（西欧編 1）	保育者の先達たちについて 調べ、レポートを作成し、 発表する人物を決める
10回目	保育職の歴史的変	社会的保育の誕生と黎明期の保育者た	保育者の先達について調

	遷	ち（西欧編 2）	べ、発表する人物についてレポートを作成する
11 回目	保育職の歴史的変遷	社会的保育の誕生と黎明期の保育者たち（日本編 1）	保育者の先達について調べ、発表する人物についてレポートを作成する
12 回目	保育職を巡る現代的課題	国際比較の中での保育職の地位 保育職採用と定着 キャリア形成 保育者資格の高度化	文献や近年の報道記事等を調べ、情報を集める
13 回目	保育職を巡る現代的課題	子どもと子育て家庭の現代的問題に対する「チーム学校としての対応」について	文献や近年の保育に関する報道記事等を調べ、情報を集める
14 回目	まとめ	各自作成のレポート内容についての発表及び、学生間のディスカッション	発表資料の準備
15 回目	まとめ	各自作成のレポート内容についての発表及び、学生間のディスカッション	発表資料の準備

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）
教科書・参考書	テキスト：特別にしません。学修の円滑な促進のために单元ごとの必要資料を教員で作成し、授業時まで配布します。 参考書：「保育における感情労働」諏訪きぬ 監修 北大路書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	特に定めませんが、質問等ある場合は、出来るだけ事前予約をお願いします
備考・メッセージ	期末試験は実施せず、知識については提出したレポートで評価します。毎回の授業への参加度については積極的に評価の対象とします。

講義科目名称：保育原理特論	授業コード：55161
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：必修	講義
担当教員				
安部恵美子				

授業概要	<p>保育とは「ケア（養護）」と「教育」を一体化した営みとされる。本授業では、保育の本質を考察するために「ケア」理論をとりあげる。ミルトン・メイヤロフの「On Caring(日本語版：ケアの本質 生きることの意味)」のケアの8要素（知識 リズム変化 忍耐 信頼 謙遜 希望 勇気）の理解を目的に、原書（英語）の講読を進める。他者の成長を助ける「ケア」の要素と保育活動の関連性に気づき、保育を理論的に考察する視点を養うことを目的とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ○保育の本質や基礎概念である「ケア」理論に関する理解を深めることができる ○「ケア」の要素を理解し、「保育」との共通項に気づくことができる ○原書講読（英語）による、英論文の読解力を身につけることができる 	<p>定期試験による総合評価</p> <p>6～14回は、次回の講読範囲の予習を課し、授業は、予習部分の輪読とする。予習内容と輪読中の理解度を評価</p>	<p>60%</p> <p>30%</p>
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）			
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）			
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ○他者の成長を助ける「ケア」の要素と保育活動の関連性について考察することができる 	<p>授業中のディスカッション参加度及びレポートの内容を評価</p>	10%

出席	受験要件 3分の2以上の出席
合計	100%
補足事項	
6 回以降の授業前には、予習用のテキスト資料（英文）を配布します。次回の授業時のテキスト資料の学生間での輪読に備えて、事前に英訳を行っておいてください。	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	保育の本質	保育の本質・基礎理論としての「ケア」の捉え方	
2 回目	保育の本質	「教育」と「ケア」の統合 保育の場（幼稚園・保育所等）での統合の様相	
3 回目	保育の本質	「教育」と「ケア」の統合 歴史的視点からの統合の様相 1 （保育所 幼稚園 小学校との連携）	
4 回目	保育の本質	「教育」と「ケア」の統合 歴史的視点からの統合の様相 2 （家庭子育て支援の現状より）	
5 回目	文献講読 On Caring 1	メイヤロフ著「ケアの本質」概説 本理論の卓越性について	6 回目分のテキストの予習
6 回目	文献講読 On Caring 2	原書の輪読（英文和訳） 序章 Introduction	7 回目分のテキストの予習
7 回目	文献講読 On Caring 3	原書の輪読（英文和訳） 第1章 The Basic Pattern その1	8 回目分のテキストの予習
8 回目	文献講読 On Caring 4	原書の輪読（英文和訳） 第1章 The Basic Pattern その2	9 回目分のテキストの予習
9 回目	文献講読 On Caring 5	原書の輪読（英文和訳） 第1章 The Growth of a person and Idea その1	10 回目分のテキストの予習
10 回目	文献講読 On Caring 6	原書の輪読（英文和訳） 第1章 The Growth of a person and Idea その2	11 回目分のテキストの予習
11 回目	文献講読 On Caring 7	原書の輪読（英文和訳） 第2章 Major Ingredients	12 回目分のテキストの予習

		Knowing Alternating Rhythms	
12回目	文献講読 On Caring 8	原書の輪読（英文和訳） 第2章 Major Ingredients Patience Honesty	13回目分のテキストの予習
13回目	文献講読 On Caring 9	原書の輪読（英文和訳） 第2章 Major Ingredients Trust Humility	14回目分のテキストの予習
14回目	文献講読 On Caring 10	原書の輪読（英文和訳） 第2章 Major Ingredients Hope Courage	前回までのテキストの整理
15回目	まとめ	メイヤロフ「ケア」理論に基づき 保育の本質を考察する	
16回目	定期試験	辞書の持込みは可とします。	

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科書・参考書	テキスト：「On Caring」Milton Mayeroff Harper Perenninal 参考書：「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフ著 田村真 向野宣之訳 ゆみる出版
履修条件	
履修上の注意	6回目からの授業には英和辞書を携行してください（電子辞書可）
オフィスアワー	特に定めませんが、質問等ある場合は、出来るだけ事前予約をお願いします
備考・メッセージ	英文の輪読はゆっくり進めます。量をこなすよりも 一文一文に込められた著者の思いを確認することを通して、理論的思考力を高めていきましょう。

講義科目名称：心身の発達と学習過程	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
座間味 愛理				

授業概要	<p>本授業では、幼児の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>具体的には発達心理学、教育心理学、学習心理学の視点を用いて子どもの行動や特性を理解し、研究や実験から得られたエビデンスと現代における教育課題とを関連させながら教育者の役割について理解を深めることを目的とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎的考え方を述べるができる	学習態度・感想シート	10%
コミュニケーション能力	・幼児の心身の発達に関連する研究や実験についてまとめ、他者に発信することができる	口頭発表	50%
課題解決能力	・幼児の心身の発達及び学習過程における今日の課題と子どもの学びを支える保育の意義についてエビデンスをもとに述べるができる	小レポート課題	40%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	教育心理学の意義と方法	オリエンテーション 早期教育についてのあなたの考えは？	予習：早期教育の定義と近年の行動について調べる
2回目	心身の発達 1	第1章 認知の発達 認知の発達に関するエビデンス紹介	復習：ピアジェの認知発達への反証 予習：教科書第2章を読む
3回目	心身の発達 2	第2章 言語の発達 言語の発達に関するエビデンス紹介	復習： 予習：教科書第3章を読む
4回目	心身の発達 3	第3章 パーソナリティの発達 パーソナリティに関するエビデンス紹介	復習：パーソナリティの定義を整理する 予習：教科書第4章を読む
5回目	心身の発達 4	第4章 社会性・道徳性の発達 社会性に関するエビデンス紹介	復習：社会性を図る指標を整理する 予習：発達検査の種類をまとめる
6回目	心身の発達 5	アクティブラーニング① 発達の評価方法を作成する	復習：測定したい発達の側面を整理する 予習：発達検査に必要な道具を準備する
7回目	心身の発達 6	アクティブラーニング② 発達の評価結果を考察する	復習：発達検査の結果の味方をまとめる 予習：第6章を読む
8回目	学習の過程 1	第6章 学習の基礎：メカニズム 学習に関するエビデンスの紹介	復習：学習に関するエピソードを整理する 予習：第7章を読む
9回目	学習の過程 2	第7章 動機付け：やる気 動機付けに関するエビデンスの紹介	復習：動機づけに関するエピソードを整理する 予習：第8章を読む
10回目	学習の過程 3	第8章 知識の獲得 記憶に関するエビデンスの紹介	復習：記憶に関するエピソードを整理する 予習：第9章を読む
11回目	学習の過程 4	第9章 教育の実践	復習：ICTに関するエピソード

		ICTを使った学びの紹介	ードを整理する 予習：第10章を読む
12回目	学習の過程5	第10章 教育現場における評価 テストに関するエビデンスの紹介	復習：評価の活用に関する エピソードを整理する 予習：保育観の違いにつち え感じたことを整理する
13回目	学習の過程6	エビデンスにみる教師のあるべき姿 ディスカッション	復習：保育観に関するエビ デンス資料を整理する 予習：学習の測定方法につ いて調べる
14回目	学習の過程7	アクティブラーニング③ 幼児の学習成果を測定する実験計画を 立てる	復習：子どもの学習の成果 を評価する方法について整 理する 予習：準備する
15回目	学習の過程8	アクティブラーニング④ 幼児の学習に関する実験結果を考察す る	復習：
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科書・参考書	『エビデンスベースの教育心理学 新刊 心身の発達と学習の過程』 榎本淳子 編 2020 ナカニシヤ出版
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
備考・メッセージ	授業の前後で対応します。または、メリーにて随時質問を受け付けます。

講義科目名称：保育経営論	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
朝野卓也				

授業概要	<p>これまでに学んだ教育・保育に関する知識が、実践の場である幼稚園・保育所・認定こども園等でのように生かされているのか、保育の制度や経営の視点から再考する。それを踏まえた施設見学やヒアリングを通して、教育・保育現場における学校・保育経営について考察する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	職業人である保育者として身につけておくべき専門知識を理解できる	・レポート	40%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	保育という仕事が感情労働であることを踏まえつつ、保育施設の組織人として求められる素養を理解できる	・レポート	30%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	保育の質の向上のため、自己研鑽と職場のチーム力を高めることの関連性を理解できる	・レポート	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	保育者の成長とキャリアデザインをイメージできる	・レポート	10%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	今後の授業の方向付け(基礎知識の理解と現場視察等による理解)	復習:保育経営に関する学習内容の確認 予習:乳幼児施設の制度の確認
2回目	保育制度の確認	幼稚園、保育所、認定こども園の存在意義と役割	復習:乳幼児施設制度の課題の確認 予習:保育経営に関する問題の抽出
3回目	保育経営の視点1	園経営の方針と経営計画	復習:保育経営に関する課題の確認 予習:クラス運営に関する問題の抽出
4回目	保育経営の視点2	クラス運営と園務のかかわり	復習:クラス運営と園務に関する課題の確認 予習:保育課程の構成と指導計画との関連
5回目	保育経営の視点3	保育課程の編成と実践	復習:保育課程の編成と実践に関する課題の確認 予習:保育制度の変遷に関する問題の抽出
6回目	保育制度の変遷1	制度改革と施策の展開(諸外国の教育事情を含む)	復習:保育制度改革と施策の展開に関する課題の確認 予習:子ども子育て支援新制度に関する問題の抽出
7回目	保育制度の変遷2	子ども子育て支援新制度(幼児教育・保育の無償化を含む)	復習:子ども子育て支援新制度に関する課題の確認 予習:保育者のキャリアパスと処遇に関する問題の抽出
8回目	保育制度の変遷3	保育者のキャリアパスと処遇改善	復習:保育者のキャリアパスと処遇改善に関する課題の確認 予習:幼稚園の学校経営に関する問題の抽出
9回目	施設見学1	幼稚園の園経営、教育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察	復習:幼稚園の学校経営に関する課題の確認 予習:保育所の保育経営に関する問題の抽出
10回目	施設見学2	保育所の園経営、教育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察	復習:保育所の保育経営に関する課題の確認 予習:認定こども園の教育・保育経営に関する問題の抽出
11回目	施設見学3	認定こども園の園経営、教育活	復習:認定こども園の教育・保育経

		動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察	営に関する課題の確認 予習:保幼小連携に関する問題の抽出
12回目	施設減額4	小学校の学校経営、教育活動の流れ、クラス経営、安全対応に関する視察	復習:小学校の学校経営に関する課題の確認 予習:子育て支援に関する問題の抽出
13回目	ヒアリング1	地域や関連団体が行う子育て支援の実際について、団体代表者・利用者に聞く	復習:子育て支援に関する課題の確認 予習:行政が行う子育て支援に関する問題の抽出
14回目	ヒアリング2	佐世保市の保育行政について、部局責任者に聞く	復習:保育行政に関する課題の確認 予習:子育て環境と地域連携に関する問題の抽出
15回目	学修のまとめ	子育て環境の変化と家庭、地域社会との連携を踏まえた保育経営の総括	復習:子育て環境と地域連携に関する課題の確認

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教科書・参考書	テキスト：教員が準備 参考書：①『あらゆる学問は保育につながる』秋田喜代美 東京大学出版会 ②『保育現場の人間関係対処法』砂上史子 中央法規 ③『最新保育資料集 2019』森上史朗 ミネルヴァ書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	

講義科目名称：カリキュラム特論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	選択	講義
担当教員				
松田 清美				

授業概要	<p>今日の保育・幼児教育では、計画や評価が重視され、カリキュラム・マネジメントが求められている。本科目では、その背景を知り、計画や評価に関する基本的な知識を身に付ける。その上で、インターンシップの体験をもとに、実際に指導計画を編成したり、PDCAサイクルに基づいて自身の保育を捉えたりすることを通して、実践に結びつく力を習得することを目指す。プレゼンテーションやディスカッションを行うことで、他者とのコミュニケーションを通して、保育者としての資質や専門性を高める経験をするということにも重点を置く。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解 (文化、社会、自然、等)	・教育課程・全体的な計画の編成について、目的や意義、方法を理解している。	課題作成	15%
	・養護及び5領域について、相互の関連性を重視しつつ、それぞれにおける子どもの発達の過程を理解し、指導計画を作成することができる。	課題作成	15%
汎用的技能 (コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	・作成した課題を発表し、受講生間で意見を交わすことを通して、互いに高め合うことができる。	プレゼンテーション	20%
態度・志向性 (自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)	・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、積極的に実践に取り入れようとしている。	課題作成	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・インターンシップの経験を踏まえ、長期的・短期的な視点から指導計画を作成することができる。	課題作成	30%
出席			受験要件

合計	100%
補足事項	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	カリキュラムをめぐる議論と現代の課題	保育のカリキュラムをめぐってなされてきた議論を知り、今日、保育における計画や評価が重視されている背景や課題を理解する。	予習：カリキュラム論のテキストや授業ノートを読み返しておく。 復習：授業の内容を振り返り、重要事項をまとめる。
2回目	保育における計画の意義とカリキュラム・マネジメント	保育における計画の意義や重要性を学び、その具体的な種類と関連、およびカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。	予習：保育における計画の意義や重要性について、自分の考えをまとめておく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項をまとめる。
3回目	教育課程と全体的な計画の編成	幼稚園や保育所における保育の基盤となる教育課程および全体的な計画について、編成の基本を理解する。	予習：教育課程や全体的な計画についてテキストを読んでおく。 復習：インターンシップ先の全体的な計画や教育課程について考察する。
4回目	全体的な計画とアプローチカリキュラム	幼児期から児童期への接続について、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを具体的に取り上げながら理解する。	予習：テキストを読み、幼児期から児童期への円滑な移行のために求められる配慮について考えておく。 復習：アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの実践事例について調べる。
5回目	長期指導計画の実際	長期指導計画作成の意義や実際を知り、作成に関する基本を理解する。	予習：長期指導計画について、テキストや参考文献で調べておく。 復習：授業での重要事項を整理する。

6回目	短期指導計画・個別指導計画の実際・	短期指導計画及び個別指導計画作成の意義や実際を知り、作成に関する基本を理解する。	予習：短期指導計画及び個別指導計画について、テキストや参考文献で調べておく。 復習：授業での重要事項を整理する。
7回目	指導計画の作成（養護）	インターンシップにおける担当年齢を対象に、「養護」部分の指導計画を作成する。	予習：「養護」に関わる乳幼児期の発達について調べておく。 復習：指導計画の養護部分を完成させる。
8回目	指導計画の作成（健康・環境）	インターンシップにおける担当年齢を対象に、「領域健康・環境」部分の指導計画を作成する。	予習：「領域健康・環境」に関わる乳幼児期の発達について調べておく。 復習：指導計画の健康・環境部分を完成させる。
9回目	指導計画の作成（人間関係）	インターンシップにおける担当年齢を対象に、「領域人間関係」部分の指導計画を作成する。	予習：「領域人間関係」に関わる乳幼児期の発達について調べておく。 復習：指導計画の人間関係部分を完成させる。
10回目	指導計画の作成（言葉・表現）	インターンシップにおける担当年齢を対象に、「領域言葉・表現」部分の指導計画を作成する。	予習：「領域言葉・表現」に関わる乳幼児期の発達について調べておく。 復習：指導計画の言葉・表現部分を完成させる。
11回目	指導計画のプレゼンとディスカッション	作成した指導計画を発表し、討議する。プレゼンにおいては、子ども理解、発達への配慮、ねらいと内容の設定、保育の連続性などにおいて特に考慮した点の説明を重視する。	予習：プレゼンテーションの準備をしておく。 復習：他者の発表やコメントをもとに、指導計画を修正する。
12回目	指導計画のプレゼンとディスカッション（前週の続き）	作成した指導計画を発表し、討議する。ディスカッションにおいては、発表者の作成した指導計画がよりよいものになるよう、意見を出し合う。	予習：プレゼンテーションの準備をしておく。 復習：他者の発表やコメントをもとに、指導計画を修正する。
13回目	保育記録の実際	保育実践者の気づきや理解を深め、保育の質の向上につながる記録について	予習：自身の経験を振り返り、記録作成の有効性や課

		考える。	題を考えておく 復習：自身の記録作成に関する改善点を考える。
14回目	記録から計画へ	インターンシップでの経験に基づき、記録をもとに計画を立て、カリキュラム・マネジメントを体験的に理解する。	予習：カリキュラム・マネジメントの実際について、テキストや参考文献をもとに事例で学んでおく。 復習：記録をもとに計画を立て、完成させる。
15回目	計画・実践から評価・改善へ	計画に基づいて実践したのちの評価と改善について、体験的に理解する。	予習：保育における評価について、「カリキュラム論」のテキストや授業ノートを読み返しておく。 復習：自身の保育実践について評価し、改善点を明らかにする。

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
教科書・参考書	教科書：学科在籍時のカリキュラム論にて使用した教科書 参考書：授業にて紹介する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業前後の時間を主とするが、研究室在室中はいつでも対応する
備考・メッセージ	課題作成にはパソコンの使用を推奨する。 実技科目ではないが、実践力を高めることにつながる科目である。意欲的な取り組みを期待する。

講義科目名称：保育内容（表現音楽）研究 I	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1	必修	演習（単数）
担当教員				
友廣 憲子				

授業概要	①様々なテーマで表現する技術を学ぶ。②作曲の知識・技術を習得する。 ③音楽絵本づくりを行い、世界で1つしかないオリジナル音楽絵本を制作する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・音楽絵本に挿入する曲を作曲することができるようになる。	実技試験	30%
	・音楽絵本を完成し、発表することができる。	実技試験	40%
コミュニケーション能力	・他の人の発表を通し自分の活動を客観的にみつめることができるようになる。	授業参加・意欲	10%
課題解決能力	・課題に向け知識と技術を活用し制作しようとする働きかけることができる。	授業参加・意欲	10%
主体的に学ぶ力	・積極的に制作しようとする姿勢がみられる。	授業参加・意欲	10%
合計			100%

補足事項	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業概要を説明する。	復習:本授業の概要を復習する 予習:次回の内容を考え準備しておくこと。

2回目	作曲	作曲の基礎を学習する	復習:学習した内容を復習しておくこと。 予習:作曲の為の材料として様々なジャンルを聞く。
3回目	作曲	絵本について考え、作曲活動に入る。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:作曲の為の材料として様々なジャンルを聞く。
4回目	作曲	学んだ知識を活用し、作曲活動を行う。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:作曲の為の材料として様々なジャンルを聞く。。
5回目	作曲	旋律を作曲する	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:旋律をイメージすること。
6回目	作曲	出来上がった旋律を修正加筆していく作曲活動	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:旋律をイメージすること。
7回目	作曲	旋律に伴奏をつける作曲活動を行う。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:作曲の為の材料として様々なジャンルを聞いて和音について勉強しておく
8回目	音楽絵本制作	BGMについて学習する。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:作曲の為の材料として様々なジャンルを聞いて和音について勉強しておく
9回目	音楽絵本制作	音楽絵本を制作する。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
10回目	音楽絵本制作	音楽絵本の作曲した曲を挿入し制作する。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
11回目	音楽絵本制作	音楽絵本にBGMを挿入し制作する。	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
12回目	発表	作曲の実技試験	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
13回目	振り返り	振り返りと制作	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
14回目	発表に向けた活動	発表に向けた活動と制作	復習:学習した内容を復習しておくこと。予習:次回の内容を準備しておくこと。
15回目	発表	音楽絵本発表	復習:学習した内容を復習しておくこと。
16回目			

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
-----------	--------------------

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	必要に応じてプリントを準備します。
履修条件	
履修上の注意	課題があるときは次回の授業までに準備しておくこと。
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育内容（表現音楽）研究Ⅱ	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1	選択	演習(単数)
担当教員				
友廣 憲子				

授業概要	①オペレッタの実践を行い、様々な表現力を培う。 ②グループ活動を通して協働力を育成する。 ③グループでドラムジカ作品を創作する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・オペレッタ作品グループで創作し実践することができる。	実技試験	30%
	・ドラムジカの実践を通し表現力のスキルを磨くことができる。	実技試験	40%
コミュニケーション能力	様々な意見を傾聴しながら協力して作り上げようとする姿勢がみえる。	授業への参加・態度	10%
課題解決能力	様々な問題を解決できる能力を身に付けることができる。	授業への参加・態度	10%
主体的に学ぶ力	グループ活動に積極的に取り組むことができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の概要説明とねらいを説明する。	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。

2回目	創作活動	オペラやオペレッタ、ミュージカルについて学習する。	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
3回目	オペレッタ	オペレッタの作品を通し表現力を磨く活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:歌のメロディーを練習しておくこと。
4回目	オペレッタ	オペレッタの作品を通し歌唱力を磨く活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習: :歌のメロディーを練習しておくこと。
5回目	オペレッタ	オペレッタの作品を通し歌唱力と表現力を磨く活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習: :歌のメロディーを練習しておくこと。
6回目	オペレッタ	オペレッタの作品を通し表現力を磨く活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習: :流れをつかんでおくこと。
7回目	オペレッタ	オペレッタの作品を通した活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:発表の準備をする。
8回目	発表	オペレッタ実技試験	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
9回目	創作活動	ドラムジカについて学習する。	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:ドラムジカの内容を各イメージしておくこと。
10回目	創作活動	ドラムジカグループ活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
11回目	創作活動	ドラムジカグループ活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
12回目	創作活動	ドラムジカグループ活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。

13 回目	創作活動	ドラムジカグループ活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
14 回目	創作活動	ドラムジカグループ活動	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
15 回目	発表	ドラムジカの実技試験と振り返り	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
16 回目			

科目（教職課程用）	保育内容の指導法に関する科目（情報機器及び教材の活用を含む）
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布 参考書:幼稚園教育要領
履修条件	保育内容（表現音楽）研究Ⅰを履修していること
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育内容（表現造形）研究 I	授業コード：54262
英文科目名称：	ナンバリング AC404

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	演習 単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	本演習では、造形活動の幼児教育における意義を理解するとともに、自然物を用いた工作、壁面制作、絵画制作、立体工作などをおこなう。また、教材研究と指導法研究を学生の個人個人が独自に行い、授業内で発表の後、これに対する相互の意見交換を行なう。また、最終的に研究レポートを作成する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・ 幼児の造形活動についての重要性を理解する	学修の取り組み	20%
	・ 幼児の造形活動を計画する方法を習得する	作品の成果	20%
	・ 幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する	作品の成果	20%
	・ 幼児の造形活動に対する保育者の支援内容を習得する	作品の成果	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)			
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等)			
総合的な学習経験と創造的思考力	・ 幼児の様々な活動を支える造形の役割を体験する	作品の成果	20%
出席			受験要件
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	はじめに	幼児の造形活動のねらいと内容、幼保小連携について	復習：造形活動を通して子どもたちの育ちをはぐくむべきかを考える 予習：制作物の使い方を考慮し、デザインを考える
2回目	幼児の表現活動の支援①	こどもの部屋の運営準備（活動の大道具作り）	復習：制作物の改善をおこなう 予習：制作物の使い方を考慮し、デザインを考える
3回目	幼児の表現活動の支援②	こどもの部屋の運営準備活動の小道具作り）	復習：制作物の改善をおこなう 予習：子ども達の動きや反応を予想する
4回目	幼児の表現活動の支援③	こどもの部屋の運営準備（環境構成）	復習：不足しているものがないか確認する 予習：子ども達と共感する心境を作る
5回目	幼児の表現活動の支援④	こどもの部屋の運営準実践	復習：問題点の確認をおこなう 予習：問題解決の方策を探る
6回目	幼児の表現活動の支援⑤	こどもの部屋の運営の振り返り（活動記録動画）	復習：自らの保育の課題につなげる 予習：自然の与える感覚について考える
7回目	自然物を用いた工作①	ナチュラルアートの制作	復習：自然物の素材の温かさを大切にしながら構想を続ける 予習：構想を具体的イメージにつなげていく
8回目	自然物を用いた工作②	ナチュラルアートの制作	復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：切り紙遊びの楽しさ

			について考える
9回目	壁面制作①	切り紙遊び	復習：切り紙遊びの不思議さを楽しみ保育の構想を作る 予習：らくがき遊びについて考える
10回目	壁面制作②	らくがき遊び	復習：らくがき遊びの不思議さを楽しみ保育の構想を作る 予習：自然物の持つ形のおもしろさについて考える
11回目	絵画制作①	野菜のスタンプ遊び	復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：フィンガーペインティングの魅力について考える
12回目	絵画制作②	フィンガーペインティング	復習：お互いの作品を鑑賞する 予習：ダンボールで作りたいたいもの考える
13回目	立体工作①	ダンボールアート（共同制作）	復習：ダンボール素材の温かさを大切にしながら構想を続ける 予習：構想を具体的イメージにつなげていく
14回目	立体工作②	ダンボールアート（共同制作）	復習：共同で作った作品を鑑賞する 予習：幼児のクラス編成を想定し、理想的な造形活動を構想する
15回目	表現造形活動の構想	造形あそびの振り返り（活動記録動画）と指導案（研究レポート）作成	復習：造形活動によって得られる効用について考える

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）

教科書・参考書	<p>課題ごとに、必要な参考資料を提示。</p> <p>参考書：『保育をひらく造形表現』 槇英子著 萌文書林 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	<p>授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。</p>
備考・メッセージ	<p>課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。</p>

講義科目名称：保育内容（人間関係）研究	授業コード：45261
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 学年	2 単位	必修	演習
担当教員				
藤野正和				

授業概要	<p>この授業では、対人関係の基盤を築いていく乳幼児期において、子どもたちがいかに人間関係を形成し、維持していくのかということについて、ヒトの人間関係形成・維持プロセスとその他影響要因をもとに考えてもらいます。また、この授業では、受講者に事例を発表してもらい、それをもとに保育者として専門的な視点と援助について考えてもらいます。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。</p> <p>①ヒトの人間関係形成・維持プロセスとその他影響要因についての知識を説明できる。</p> <p>②保育現場の実体験について「人間関係」という視点で客観的に整理・説明することができる。</p> <p>③事例を通じて保育者として必要な視点・援助について考察することができる。</p> <p>④他者の意見を取り入れながら多様かつ柔軟に問題を整理し、解決策を提案することができる。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	ヒトの人間関係形成・維持プロセスとその他影響要因についての知識を説明できる	小テスト	20
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	事例を通じて保育者として必要な視点・援助について考察することができる	グループワーク	20
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	他者の意見を取り入れながら多様かつ柔軟に問題を整理し、解決策を提案することができる	レポート	40
総合的な学習経験と創造的思考力	保育現場の実体験について「人間関係」という視点で客観的に整理・説明することができる	グループワーク	20

出席	受験要件
合計	100%
補足事項	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の内容の説明、受講における留意点、レポート（事例）の作成の仕方などについて説明する	予習：教科書を大まかに通読しておく 復習：レポートの書き方を振り返っておく
2回目	子どもの人間関係のなかの自己	<ul style="list-style-type: none"> 自己意識・自己評価等について説明する 事例検討 	予習：教科書 P1~20 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
3回目	子どもの出会いからの人間関係の発展	<ul style="list-style-type: none"> 印象・親密化等について説明する 事例検討 	予習：教科書 P21~38 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
4回目	子どもの非言語・言語的コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 非言語・言語的コミュニケーションについて説明する 事例検討 	予習：教科書 P39~56 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
5回目	子どもの好きと嫌いの人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 好意的人間関係・嫌悪的人間関係について説明する 事例検討 	予習：教科書 P57~76 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
6回目	子どもの援助の人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 援助行動について説明する 事例検討 	予習：教科書 P77~94 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
7回目	子どもの支配と服従の人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 社会的勢力・支配的行動について説明する 事例検討 	予習：教科書 P95~112 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・

			記録をふりかえる
8回目	子どもの攻撃と対立の人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攻撃行動・対立的行動について説明する ・ 事例検討 	予習：教科書 P113~130 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
9回目	子どもの集団のなかの人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の凝集性・圧力・社会的認知について説明する ・ 事例検討 	予習：教科書 P131~148 を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
10回目	子どもの笑いと人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの笑いと人間関係について説明する ・ 事例検討 	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
11回目	子どものうそと人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものうそと人間関係について説明する ・ 事例検討 	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
12回目	子どもの規範意識と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの集団における規範意識と人間関係について説明する ・ 事例検討 	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
13回目	子どもとロボットとの人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとロボットとの関係性について説明する ・ 事例検討 	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
14回目	親の思いと子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の思いと子育て支援について説明する ・ 事例検討 	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料・記録をふりかえる
15回目	授業全体の総括	授業全体を総括するとともに、総合的なまとめのレポートを作成する	予習：授業で配られた資料を整理しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教職に関する科目
-----------	----------

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育課程及び指導法に関する科目
教科書・参考書	教科書：イラストレート人間関係の心理学[第2版] 齊藤 勇(著) 誠信書房 参考資料：授業内で適宜配付する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します(研究室)
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を阻害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合はそれ相応の対応を行います。

講義科目名称：保育内容（環境）研究	授業コード：35161
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択	
担当教員				
黒崎 朗				

授業概要	<p>①環境教育に関するねらいと内容についての見識を深め、指導法の確立を図る。</p> <p>②園並びに園周辺の環境の実態を把握し活動資料を収集整理する。 (動植物の飼育栽培及び見学計画の立案)</p> <p>③動植物とのふれ合いを通じた活動・空気や水に関する科学遊び・物や道具の役割・扱い方に着目し、実践を行う。</p> <p>④記号・文字や数量に対する興味関心の持たせ方を理解し、保育者に必要な知識・技能を理解する。</p> <p>⑤幼児期の環境活動の重要性を理解し、将来の保育者として主体的に学び続ける意欲を養う。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解 (文化、社会、自然、等)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが置かれている環境の実態を正しく把握できる。 望ましい園環境の整備と活動の年間計画が設計立案できる。 生物、空気、水や土など使った遊び(活動)の指導法を立案できる。 	演習態度 活動計画作成	20% 20%
汎用的技能 (コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の考えなどを受容しながら、新たな意見・アイデアを取り入れながらグループ活動に積極的に取り組もうとする。 		
態度・志向性 (自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの長短を把握して活動の適切な支援ができる。 	各領域の制作物	30%
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> インターン園の環境をチェックし課題を見つけその改善を計画できる。 	実習園の実践報告	30%
出席			受験要件

合計	100%
補足事項	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習：・復習：
1回目	授業ガイダンス	・本科の領域「環境」を復習：し、専攻科での内容や取扱い及び留意事項等の関連や発展内容についての確認。	復習： 予習：本科学習事項を再確認
2回目	人間の生活と環境	・環境について理解し環境を活かす人間の工夫・衣食住に関連する環境による教育。 (電気を作る)	復習：課題プリントの記入遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習：指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
3回目	環境をつくるⅠ-①	○物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：音を体験する。 (糸電話・風船電話・笛づくり)	復習：課題プリントの記入 予習：校外学習の留意点についてまとめる。
4回目	子どもと園の環境	○子どもを主体とする園環境の整備・周辺環境の活用(自然と親しむ)と指導法及び施設見学	復習：課題プリントの記入 予習：指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
5回目	環境をつくるⅠ-②	○物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：空気を知る。 空気砲(紙玉でっぼう)・大気圧の体験	復習：課題プリントの記入遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習：指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
6回目	環境をつくるⅠ-③	○物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動：紙を使って 紙飛行機・牛乳パック・ブーメラン	復習：課題プリントの記入遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習：指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
7回目	環境を守る	○物を扱う 輪ゴムを使って・ペットボトルの再利用(ペットボトル細工)	復習：課題プリントの記入遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習：指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。

			びのアイデアを創造 リサイクルの意義。
8回目	環境をつくるI-①	○物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動:水溶液を知る(シャボン玉・色水・色の分離)	復習:課題プリントの記入 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。 予習:指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
9回目	環境を知る-① (季節を感じる)	○身の回りの植物・昆虫と触れあう	復習:課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習:指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
10回目	行事と子どもの関わり	①家庭行事との関わり ②地域行事との関わり及び支援・指導法	復習:課題プリントの記入。 予習:地域年中行事を探る。
11回目 12回目	環境を知る-② (季節を感じる)	○プラネタリウムの観望・現地実習	復習:課題プリントの記入 遊びの中の環境構成の留意点を考える。 予習:指定分野の新しい遊びのアイデアを創造。
13回目	園環境の現状と改善の計画	〔課題レポート1〕…発表と考察検討	復習:課題の発表準備。 予習:(保育計画)・付録を精読。
14回目	園環境の現状と改善の計画	〔課題レポート2〕…発表と考察検討	復習:課題の発表準備。 予習:(保育計画)・付録を精読
15回目	保育計画の立案	○インターンシップ園における保育計画案の検討年次計画・年間計画(月案・週案・日案の活用性ある形式)	復習:保育所保育指針改定の要点を把握、幼稚園教育要領改訂の要点を把握。 予習:

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	指定しない
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	授業内で作成したおもちゃをインターシップ先で園児との活動で使うことを促していきたい。 材料費は受講生より徴収します。

講義科目名称：保育内容（言葉）研究	授業コード： 34161
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
新井悦子				

授業概要	<p>子どもが親から離れて社会の中で生きていくためには、しっかりしたコミュニケーション能力を育てておかなければならない。その援助をするために、本科目では「子どもはどのようにして言葉を獲得していくのか」、また「それを支える保育者はどのような環境を用意し、どのようにかかわっていくのか」ということについて学習していく。</p> <p>授業は毎回、テキストの内容を学生たちが発表していく形式で進める。その中で、学生たちがインターンシップ先の職場で実際に体験した事例なども取り入れながら、生の子どもの言葉に触れ、子どもが人の話を聴いたり、言葉で表現したりする力を育てるための指導法も学習していく。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	①言葉の役割について理解ができる。 ②子どもの言葉の発達について理解ができる。	レポート	40%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	③子どもの言葉を育てる環境づくりの方法について理解ができる。	グループディスカッション	10%
	④子どもの言葉を育てる活動の指導法を考えることができる。	発表 レポート	10% 10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	⑤子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義について理解ができる。	グループディスカッション 発表 レポート	10% 10% 10%
総合的な学習経験と創造的思考力			
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
・本授業では、レポート60%、グループディスカッション20%、発表20%の割合で評価する。			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	学習の前に1	保育内容「言葉」を学ぶ：オリエンテーション。	復習：教科書の全体に目を通し、学習内容の把握 予習：「言葉をめぐるワークショップ」担当部分の発表準備
2回目	学習の前に2	言葉をめぐるワークショップ	復習：「言葉をめぐるワークショップ」全体の見直し 予習：「言葉の育つ道すじ」担当部分の発表準備
3回目	言葉の育ちと保育1	言葉の育つ道すじ	復習：「言葉の育つ道すじ」全体の見直し 予習：「言葉の前の言葉」担当部分の発表準備
4回目	言葉の育ちと保育2	言葉の前の言葉	復習：「言葉の前の言葉」全体の見直し 予習：「1つの言葉で」担当部分の発表準備
5回目	言葉の育ちと保育3	1つの言葉で	復習：「1つの言葉で」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（1）」担当部分の発表準備
6回目	言葉の育ちと保育4	人とつながる言葉（1）	復習：「人とつながる言葉（1）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（2）」担当部分の発表準備
7回目	言葉の育ちと保育5	人とつながる言葉（2）	復習：「人とつながる言葉（2）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（3）」担当部分の発表準備
8回目	言葉の育ちと保育6	人とつながる言葉（3）	復習：「人とつながる言葉（3）」全体の見直し 予習：「言葉で考える」担当部分の発表準備
9回目	言葉の育ちと保育7	言葉で考える	復習：「言葉で考える」全体の見直し 予習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」担当部分の発表準備
10回目	言葉の育ちと保育8	言葉で表現する：遊びから生まれる表現	復習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」全体の見直し

			予習：「言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども」担当部分の発表準備
11 回目	言葉の育ちと保育 9	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども	復習：「言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども」全体の見直し 予習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」担当部分の発表準備
12 回目	言葉の育ちと保育 10	言葉をめぐる相談の実際と対応	復習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」全体の見直し 予習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」担当部分の発表準備
13 回目	言葉の育ちを考える背景 1	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」	復習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」全体の見直し 予習：「児童文化財で広がる世界」担当部分の発表準備
14 回目	言葉の育ちを考える背景 2	児童文化財で広がる世界、情報教材の活用例	復習：「児童文化財で広がる世界」全体の見直し 予習：「子どもの言葉に心を寄せて」担当部分の発表準備
15 回目	言葉の育ちを考える背景 3	子どもの言葉に心を寄せて	復習：「子どもの言葉に心を寄せて」全体の見直し

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	テキスト：『演習保育内容「言葉」－基礎的事項の理解と指導法 初版』 戸田雅美編著 2019 建帛社 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	次回の授業範囲（特にテキストの事例部分）を予習し、わかりやすい発表ができるようにしておくこと。
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	インターンシップ先での経験と教科書での学びを結び付け、論理的に説明できるような視点を持って日々過ごしてください。

講義科目名称：保育児童（子育て）相談	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
川原ゆかり				

授業概要	<p>少子・高齢社会における核家族の子育て及び子どもの生活や育ちについての基本的な知識を修得する。子どもの発達の基本や発達段階を理解し、子育てに戸惑う保護者への支援に対する知識と技術を体得することができる。また、親になるプロセスと養育性について考察し、「己自身」を心理検査等で客観的に知り、保育相談に必要なカウンセリングマインドを修得する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	様々な子どもの発達検査法を理解すると共に、事例を通して、客観的な発達理解（発達レベル）を理解し、考察につなげることができる。	・定期テスト（レポート）	40%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	子育て相談の事例研究・やロールプレイングで、実践的な相談援助のスキルを高めることができる。	・定期テスト（レポート）	40%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	種々の心理検査を介して自己理解の洞察を深め、対人援助の基本力を向上させることができる。	・定期テスト（レポート）	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	グループ討議等を通して、視野を広げ、多様な価値観や支援の観点を持つと共に、保護者の心に寄り添い、援助できる力量を高めることができる。	・定期テスト（レポート）	10%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目			
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：ホスピタリティ論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2	修了 必修	講義
担当教員				
安部 直樹				

授業概要	<p>① 「ホスピタリティ」の概念を理解し、私たちの暮らしの中にあるホスピタリティマインドについて理解する。</p> <p>② 本学の見学の精神でもある「茶道」を取り入れた教育活動等への参加を通して、保育者に必要なホスピタリティマインドを理解し、様々な保育現場においての実践を目指す。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティ（hospitality）の概念を理解する ・身近な地域（平戸）に生まれた茶道鎮信流の歴史的背景を理解し、地域文化の伝承と発展について考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	25%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティを重視する茶道の目的を理解する ・「茶道」を取り入れた保育・教育活動に参加することで、ホスピタリティマインドの重要性を理解しながら実際の保育場面に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動 ・茶会参加（亭主・半東） ・レポート 	20% 20% 5%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に必要な意見や他者への助言・アドバイス等を的確に行う中で、自分の役割を自覚し臨機応変な対応を進んでできる。 ・グループ内で協力をし、目標に向かって継続・遂行ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動 ・茶会参加（役割確認・準備等） 	10% 20%
総合的な学習経験と創造的思考力			
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
レポート（30%） 制作活動（30%） 茶会参加（お茶ごっこへの取り組み：亭主・半東）40%			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	ホスピタリティの概念	ホスピタリティの概念の理解	予習:用語の意味を調べておく
2回目		日本の文化におけるホスピタリティについて	復習:講義内容のまとめ
3回目	ホスピタリティを重視する茶道の目的	茶道文化とホスピタリティ精神の融合	予習:茶道文化(基礎編)第4章 確認 復習:講義内容のまとめ
4回目		茶道点前を通したマナーや作法の習得 研究レポートⅠ作成	レポート提出Ⅰ
5回目	茶道鎮信流の歴史的背景	平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史① 松浦家と平戸の歴史について	予習:松浦家第37代詮(心月)が建築した茶室について事前に調べる 復習:
6回目		平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史② 閑雲亭(茶室)について	学習課題 復習:「閑雲亭や『百菓之図元本』等についてレポート提出
7回目	「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際	「和・おもてなし・日本」をテーマにした制作活動内容の考案	予習:制作活動計画書作成・物品購入
8回目			復習:活動の振り返り
9回目			
10回目		茶道体験(お茶ごっこ)への参加学習① 幼児を対象とした茶道教育(お茶ごっこ)について(対象:年中児)	予習:点前の確認及び担当者同士で事前打ち合わせを行う
11回目	茶道体験(お茶ごっこ)への参加学習② 幼児を対象とした茶道教育(お茶ごっこ)について(対象:年長児及び保護者)	復習:茶道(お茶ごっこ)を通して年中児・年長児に身に付く内容等について、レポート提出	
12回目			
13回目			
14回目	保育者に必要なホスピタリティマインド	研究レポートⅡ作成	予習:活動内容をまとめておく
15回目			復習:記入内容を推敲後にレポート提出Ⅱ
16回目	定期試験	なし	

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	

教科書・参考書	必要なプリントを配布
履修条件	
履修上の注意	・点前練習時においては、服装や身だしなみなみにも十分に配慮すること。 また、講義内容に関連する資料等の収集・整理も十分に行うこと。
オフィスアワー	・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	

講義科目名称：障害福祉論	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
西 司				

授業概要	<p>以下の各項目の知識を習得し、全体を通して、「障害とは何か」「障害者支援の方法」「地域社会での共生社会の在り方」を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>①障害概念と障害者福祉理念の歴史的展開について理解する。②障害者福祉の関係法規、関連分野について理解する。③障害者の権利擁護について理解する。④障害者の生活実態とニーズを把握して福祉の相談支援とソーシャルワークについて理解する。⑤障害者福祉の現状を考え、障害者支援について考察する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	障害児・者を取り巻く現在の社会情勢・環境を理解し、障害福祉の専門的知識・技術を正しく理解し、保育の様々な場面で、その活かし方を理解できる。	定期試験 小テスト	60% 10%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	現状の障害児・者を取り巻く社会情勢・環境を正しく理解し、保育の様々な場面を考えて、解決に導く力を養う。	レポート	10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	障害者の生活とニーズから、「障害者の自立」について考え、ノーマライゼーションの視点に基づいた障害者支援の考えを意見にまとめることができる。	グループ討議 授業への参加・態度	5% 5%
総合的な学習経験と創造的思考力	「障害とは何か」を考える力を身に着け、共に生きる社会を築いていくにはどうあるべきかなど考えることができる。	レポート	10%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験 60%、レポート 20 パーセント、小テスト 10 パーセント、グループ討議 5%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のポイントと進め方について 「障害って何」についてレポート提出	予習：配布資料を読む 以下予習は毎回同様
2回目	「障害とは何か」	障害を構造的に理解する。 ICIDHとICFの考え方を理解する。	復習：ICIDHとICFの相違 について考える。
3回目	障害者福祉の理念と 歴史について（1）	障害の定義と障害福祉の歴史的展開につ いて理解する。	復習：制度の歴史的展開に ついて振り返る
4回目	障害者福祉の理念と 歴史について（2）	ノーマライゼーションの考え方と脱施設 化、地域生活支援について理解を深める。	復習：ノーマライゼーショ ンについて振り返る。
5回目	障害者福祉をめぐる 法律・制度	障害者福祉制度の戦前・戦後の展開につ いて学ぶ	復習：戦前・戦後の福祉関 係法律の成立を考える。
6回目	障害者を支える法律 制度の現状と課題 1	障害者総合支援法の全体像を理解し、法律 改正の背景について学ぶ。	復習：障害者総合支援法成 立までの背景を考える。
7回目	〃 2	障害者基本法と各障害者福祉法について 理解し、関連分野の法律を学習する。	障害者基本法は重要なポイ ントです、振り返りを。
8回目	〃 3		
9回目	小テスト	前半についての理解度を確認する。	
10回目	障害者の生活とニーズ	障害者統計データから全体像を理解し、 ニーズに焦点をあてた支援を考える。	復習：障害者のニーズにつ いて振り返り。
11回目	障害者の社会参加	障害者の生活実態を学習する。	〃
12回目	障害者の就労支援	障害者の働く権利について学習する。	復習：障害者差別を考える
13回目	障害者支援とソーシ ャルワーク	障害者支援とソーシャルワークの必要 性について理解を深める。	復習：ソーシャルワークの 必要性を考える。
14回目	まとめ 1	課題をグループ討議、意見発表	グループ意見を振り返る
15回目	まとめ 2	全体講義と課題レポート提出	障害とは何かを再度考える
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則 に定める科目区分または 事項等	
教科書・参考書	「共に生きるための障害福祉学入門」結城俊哉 編 大月書店 別途資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	障がい者福祉に関する社会（新聞等）の情報等に関心をもって、学校で学ん だこととの関連性をしっかり考えてほしい。

講義科目名称：子ども家庭援助技術特論	授業コード：54162
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	演習
担当教員				
花城 暢一				

授業概要	<p>授業では、以下の事項を踏まえ、子ども・保護者支援を担う保育者に求められる専門的な知識や技能を様々な演習を通して習得することを目標とする。</p> <p>① 社会における家族の意義や機能、子育てにおける家庭の役割等を学ぶ。</p> <p>② 今日の社会的状況と子育てを照らし合わせながら、子どもと家庭を援助していく知識・技術を習得する。</p> <p>③ 講義の後半では、事例検討やロールプレイ等の演習を通して家族援助や地域福祉の視点から保育者に求められる専門性について考察を深めていく。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然等）	家庭の機能と役割についての理解を深めることができる。	レポート課題	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	子どもや保護者とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。	レポート課題 ロールプレイ	20% 10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等）	子どもや家庭を支援していく際の保育者の役割と専門性について考察を深めることができる。	事例検討 ロールプレイ	5% 10%
総合的な学習経験と創造的思考力	現代の保育問題や家族問題などの社会的動向を考える（分析する）姿勢を養うことができ、子ども・子育て支援に必要な知識・技術を習得することができる。	事例検討 ロールプレイ レポート課題	5% 10% 20%
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のねらいと進め方について	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	家族全体を地域で総合的に支援する	家庭問題を総合的な理解	予習：家庭が抱える問題を考える 復習：配布資料を読む
3回目	家族構成・社会の変化	家族構成および社会の変化	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
4回目	ライフサイクルの変化	人間の生涯生活における家族関係等	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
5回目	家族および社会の子育て機能	家族および社会の子育て機能	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
6回目	子ども子育てを支える社会の仕組み	子ども子育てを支える諸制度	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
7回目	子ども子育て支援の視点と方法（その1）	子ども子育て支援の事例検討	予習：相談援助の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
8回目	子ども子育て支援の視点と方法（その2）	子ども子育て支援の事例検討	予習：相談援助の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
9回目	子ども子育て支援の視点と方法（その3）	子ども子育て支援の事例検討	予習：相談援助の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
10回目	子ども子育て支援の実際（その1）	ロールプレイ演習	予習：相談援助の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
11回目	子ども子育て支援の実際（その2）	ロールプレイ演習	予習：相談援助の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む

12回目	子ども子育て支援の実 際（その3）	ロールプレイ演習	予習：相談援助の学習内容 を振り返る 復習：配布資料を読む
13回目	子ども子育て支援の実 際（その4）	ロールプレイ演習	予習：相談援助の学習内容 を振り返る 復習：配布資料を読む
14回目	子ども子育て支援の実 際（その5）	ロールプレイ演習	予習：相談援助の学習内容 を振り返る 復習：配布資料を読む
15回目	子ども子育て支援にお ける保育者の役割と専 門性	子ども子育て支援における保育者 の役割の明確化	予習：これまでの授業内容 を振り返る 復習：配布資料を読む
16回目	レポート課題		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	テキスト：必要に応じて資料を配布します。 参 考 書：『よくわかる ファミリーソーシャルワーク』喜多祐荘・小林 理 編、ミネルヴァ書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	

講義科目名称：子ども家庭福祉特論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2	必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	子ども家庭福祉に関する制度や事業、援助の基本、その実際について理解を深める。本講義では、①子どもの権利と子ども観について説明できる、②子ども家庭福祉に関する制度を説明できる、③子ども家庭福祉の援助の基本と倫理を理解できる、④子ども家庭福祉に関連する事業を説明できる、⑤様々な状況にある子どもを支える子ども家庭福祉について理解できることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と子ども観について説明できる。 ・子ども家庭福祉に関する制度を説明できる。 ・子ども家庭福祉の援助の基本と倫理を理解できる。 ・子ども家庭福祉に関連する事業を説明できる。 ・様々な状況にある子どもを支える子ども家庭福祉について理解できる。 	定期試験	60%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、子ども家庭福祉の援助の基本と倫理を理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	様々な状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の現状と課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	20%
主体的に学ぶ力	子ども家庭福祉の課題を理解し積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

本授業では、定期試験 60%、グループディスカッション 10%、レポート 20%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	子ども家庭福祉の状況と基本的考え方	現代社会における子ども家庭福祉問題について説明する。	予習：子ども家庭福祉の理念を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
2回目	子ども家庭福祉の状況と基本的考え方	子ども家庭福祉の理念について説明する。	予習：子ども家庭福祉の意義と基本的枠組みを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
3回目	子ども家庭福祉の状況と基本的考え方	子ども家庭福祉の意義と基本的枠組みについて説明する。	予習：子ども観の変遷を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
4回目	子どもの権利と子ども観	子ども観の変遷について説明する。	予習：児童の権利に関する条約について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
5回目	子どもの権利と子ども観	児童の権利に関する条約について説明する。	予習：児童福祉法について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
6回目	子ども家庭福祉の制度	児童福祉法について理解する。	予習：児童福祉六法について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
7回目	子ども家庭福祉の制度	児童福祉六法について説明する。	予習：子ども家庭福祉の行政と財政を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
8回目	子ども家庭福祉の制度	子ども家庭福祉の行政と財政について説明する。	予習：児童相談所について調べておくこと。

			復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
9回目	子ども家庭福祉の実施機関	子ども家庭福祉の実施機関について説明する。	予習：地域子育て支援拠点事業について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
10回目	子ども家庭福祉の施設と事業	子ども家庭福祉の施設と事業について説明する。	予習：子ども家庭福祉の援助の基本と特性を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
11回目	子ども家庭福祉の援助	子ども家庭福祉の援助の基本と特性について理解する。	予習：子ども家庭福祉を支える倫理を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
12回目	子ども家庭福祉の援助	子ども家庭福祉を支える倫理について理解する。	予習：子どもの貧困とひとり親家庭への支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
13回目	様々な状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の現状と課題	子どもの貧困とひとり親家庭への支援について説明する。	予習：虐待を受けている子どもへの支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
14回目	様々な状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の現状と課題	虐待を受けている子どもへの支援について説明する。	予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
15回目	まとめ	振り返りを行う。	
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
-----------	--

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『よくわかる子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：世代間交流論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	
担当教員				
花城 暢一				

授業概要	<p>授業では、以下の事項を踏まえ、子どもと高齢者等の世代間交流の意義と具体的な実践内容を学習し、世代間交流を実践するあたり保育者に求められる視点や姿勢等を習得することを目標とする。</p> <p>① 子どもおよび高齢者等を取り巻く社会環境について学ぶ。</p> <p>② 世代間交流の意義と具体的な実践内容について学ぶ。</p> <p>③ 世代間交流に求められる視点・知識・技術を習得する。</p> <p>講義では、事例検討など様々な演習を通して世代間交流における保育者に求められる事項について考察を深めていく。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然等）	子どもおよび高齢者等を取り巻く社会環境の変化等についての考察を深めることができる。	レポート課題	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	世代間交流に求められる視点や知識・技術等について習得することができる。	レポート課題 ロールプレイ	20% 10%
態度・志向性（自己管理力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等）	世代間交流の意義・保育者の役割等について考察を深めることができる。	事例検討 ロールプレイ	5% 10%
総合的な学習経験と創造的思考力	現代の保育問題や地域課題などの社会的動向を考える（分析する）姿勢を養うことができ、世代間交流に必要な知識・技術を習得することができる。	事例検討 ロールプレイ レポート課題	5% 10% 20%
合計			100%

補足事項

- レポート課題（60%）
- 事例検討（10%）
- ロールプレイ等の学習に取り組む姿勢（30%）を総合して評価を行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のねらいと進め方について	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	子ども・高齢者を取り巻く社会の変化（その1）	子どもおよび高齢者等を取り巻く社会環境の変化	予習：社会の変化について考察する 復習：配布資料を読む
3回目	子ども・高齢者を取り巻く社会の変化（その2）	子どもおよび高齢者等を取り巻く社会環境の変化	予習：社会の変化について考察する 復習：配布資料を読む
4回目	世代間交流の意義	世代間交流の意義について	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
5回目	世代間交流の視点と方法	世代間交流の視点や具体的な実践について	予習：児童福祉・家庭支援論等の学習内容を振り返る 復習：配布資料を読む
6回目	世代間交流のプログラム（その1）	世代間交流の実践内容について	予習：インターンシップ先の取り組みを振り返る 復習：配布資料を読む
7回目	世代間交流のプログラム（その2）	世代間交流の実践内容について	予習：インターンシップ先の取り組みを振り返る 復習：配布資料を読む
8回目	高齢者疑似体験	演習機材を使用した疑似体験の実施	予習：高齢者について考察する 復習：配布資料を読む
9回目	事例検討（その1）	事例検討を通じた世代間交流の考察	予習：交流内容について考える 復習：配布資料を読む
10回目	事例検討（その2）	事例検討を通じた世代間交流の考察	予習：交流内容について考える 復習：配布資料を読む

11 回目	事例検討（その3）	事例検討を通じた世代間交流の考察	予習：交流内容について考える 復習：配布資料を読む
12 回目	世代間交流の企画立案（その1）	世代間交流のプログラムを企画する	予習：情報収集を行う 復習：配布資料を読む
13 回目	世代間交流の企画立案（その2）	世代間交流のプログラムを企画する	予習：情報収集を行う 復習：配布資料を読む
14 回目	世代間交流の企画立案（その3）	世代間交流のプログラムを企画する	予習：情報収集を行う 復習：配布資料を読む
15 回目	世代間交流における保育者の役割と専門性	世代間交流における保育者の役割の明確化	予習：これまでの授業内容を振り返る 復習：配布資料を読む
16 回目	レポート課題		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：必要に応じて資料を配布します。 参考書：『世代間交流額の創造』草野敦子他、あけび書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育者看護論	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	講義
担当教員				
井田 裕子				

授業概要	<p>①子どもは家族の中に誕生し家族に育まれ成長発達しており、子どもと家族は一つの単位であること、また子どもを取り巻く人々や地域社会との関連があることをとらえる。</p> <p>②「何か変！」と言うようにいつもと違うことに気づく能力を身につけて、観察の重要性和主な症状に対する関わり方や健康問題とその対応を事例紹介などで深める。</p> <p>③子どもを取り巻く環境や事故の要因について特徴をとらえ、応急措置や予防法を学内演習で学ぶ。</p> <p>④安静を必要とする子どもの遊びについてはグループワークで具体例を出し合いながら検討し内容を深めていく。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然等）	<p>①小児看護の特質や健康問題が及ぼす家族への影響が理解できる。</p> <p>②小児にみられる主な症状の見方と看護の基礎知識を身につけることができる。</p>	<p>・筆記試験</p> <p>・授業内の課題提出</p>	<p>25%</p> <p>15%</p>
汎用的技術（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	<p>③小児がよく遭遇する健康問題のある子どもへの対応が理解できる。</p> <p>④子どもの事故の特徴をとらえ事故防止と安全の重要性がわかる。</p>	<p>・筆記試験</p> <p>・授業内の課題提出</p>	<p>25%</p> <p>15%</p>
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	<p>⑤安静を必要とする子どもの遊びを考えその関わり方がわかる。</p>	<p>・学習の取り組みや態度</p>	<p>20%</p>
総合的な学習経験と創造的思考力			
合計			100%

補足事項

授業終了後の筆記試験（50%）、授業内の課題提出（30%）、学習の取り組みや態度（20%）を統合して評価を行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	小児看護の特質	小児看護の対象と目標、小児看護の場と役割	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
2回目	小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響	小児の健康問題・子どもの反応・親や兄弟の反応	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
3回目	子どもの健康状態	状態の把握、観察の重要性（異常の気づき）、病気の特徴	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
4回目	小児にみられる主な症状の見方と対応①	啼泣・不機嫌、発熱・咳など	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
5回目	小児にみられる主な症状の見方と対応②	腹痛・下痢・便秘・嘔吐・脱水など	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
6回目	小児にみられる主な症状の見方と対応③	頭痛・けいれん・発疹など	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
7回目	子どもが遭遇する疾病時の関わり①	感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザ）、予防接種	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
8回目	子どもが遭遇する疾病時の関わり②	気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど	予習:学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習:学んだことを振り返りながら教科

			書・資料などをまとめておくこと
9回目	薬の取り扱いと服薬法	服薬法（散剤・水薬・シロップ）座薬の使い方・救急箱	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
10回目	子どもの事故と安全対策①	事故の原因・救急措置・異物誤嚥	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
11回目	子どもの事故と安全対策②	切傷・刺傷・擦過傷・骨折・熱傷・鼻出血	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
12回目	保育における子どもの健康管理	保育中の子どもの体調不良や感染症発症時の対応	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
13回目	安静を必要とする子どもへの関わり①	安静の必要性、安静を必要とする子どもの遊び、グループワーク	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
14回目	安静を必要とする子どもへの関わり②	安静を必要とする子どもの遊び、グループワーク	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
15回目	保育者としての健康管理	個人衛生・自己管理	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：「小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」 医学書院

履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	前期：月曜日 6 限目
備考・メッセージ	実技の実習を自分で実践したり、教科書をよく読んでおくこと。

講義科目名称：児童文化研究	授業コード：35261
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	2 単位	卒業：選択 幼一免：必修	講義
担当教員				
新井悦子				

授業概要	児童文化財の歴史・現在の子どもと児童文化財について学ぶ。絵本を中心に取り上げ、ディスカッションを通じて、絵本の特性・絵本の問題点・絵本から遊びに発展させる方法などを身に付ける。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	①児童文化の歴史、子どもを取り巻く環境（生活や遊び）、児童文化財の特性・活用法を理解し、説明できる。	レポート	15%
		研究発表	10%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	②課題別絵本研究などテーマに沿って調べ、協力して討議できる。	ディスカッション	15%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	②課題別絵本研究などテーマに沿って調べ、積極的に発言し討議できる。 ③授業で学んだことを自分の言葉でまとめることができる。	ディスカッション	15%
		レポート	5%
総合的な学習経験と創造的思考力	④絵本に関するテーマを自ら見つけ、調べ、発表できる。 ⑤絵本から遊びに発展させる方法を立案し、発表できる。	研究発表	40%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
積極的なディスカッションへの参加と個人およびグループでの研究発表を評価する。 ディスカッション内容（30%）、研究発表（50%）、課題レポート（20%）			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業のねらい・進め方、評価についての説明	復習：授業のねらい・進め方・評価について振り返る 予習：児童文化の歴史の変遷について学ぶ（教科書）
2回目	児童文化のあゆみ	児童文化の歴史の変遷	復習：児童文化の歴史の変遷について振り返る 予習：児童文化財にはどのようなものがあるか調べる。
3回目	児童文化財の特性	児童文化財（絵本・紙芝居・人形劇・ペープサート・素話・劇遊びなど）の特性について学ぶ	復習：児童文化財の特性について振り返る 予習：子どもを取り巻く社会の変化について考える。
4回目	現代の子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く社会の変化	復習：子どもを取り巻く社会の変化について振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する
5回目	課題別絵本研究	絵本に描かれる母親像	復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する
6回目	課題別絵本研究	絵本に描かれるジェンダー	復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する
7回目	課題別絵本研究	さまざまな障害について	復習：今回のテーマについて振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する
8回目	課題別絵本研究	国際理解について	復習：今回のテーマの絵本について振り返る 予習：次回のテーマの絵本を準備する
9回目	課題別絵本研究	役割を持つ絵本	復習：今回のテーマの絵本について振り返る 予習：自分でテーマを考える
10回目	課題別絵本研究	学生自身によるテーマを設定する。調べる。	復習：自身で設定したテーマ・絵本について振り返る 予習：自身で設定したテーマの絵本について調べる、考えをまとめる
11回目	課題別絵本研究	課題別研究の発表	復習：各受講生の発表を振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる実例を調べる
12回目	絵本から遊びへの発展	実例を学ぶ	復習：絵本から遊びへ発展させる実例について振り返る 予習：園での絵本から遊びへ発展させ

			る実例について調べる
13回目	絵本から遊びへの発展	園での実例報告	復習：各受講生の報告を振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる具体案を考える
14回目	絵本から遊びへの発展	絵本から遊びへ発展させる具体案を考える	復習：絵本から遊びへ発展させる具体案について振り返る 予習：絵本から遊びへ発展させる具体案の発表の準備をする
15回目	絵本から遊びへの発展	絵本から遊びへの発展について発表する	復習：各受講生の発表を振り返る

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：教科書 購入「絵本から学ぶ子どもの文化」 浅木尚実（編著） 同文書院 2015 978-4-8103-1439-7
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問等に対応します
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 インターンシップ先での経験も交えて、積極的に発言することを期待します。また日ごろから、絵本について関心を持ち、時には批判的な視点でも絵本を見ることができるよう心掛けてください。

講義科目名称：保育実践特別研究 I	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<p>1. 保育所・幼稚園・認定こども園におけるインターンシップを通して、子どもの姿を多面的にとらえる保育について考察する。</p> <p>2. 子どもを中心とした保育者・園・家庭・地域の協力・協働のあり方を学ぶ中で、自己課題を明確にし、積極的且つ責任感をもって保育に携わる。</p> <p>3. インターンシップを通して、記録の意義及び重要性を理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	・保育者としての自覚や責任感のある姿勢を保持することができる。	・授業内レポート	10%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	・保育者論を基に現場における専門的知識を活用し、保育実践につなげる応用力を身につけることができる。	・インターンシップ記録	20%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等）	・保育者として、子ども・保護者等とかわるごとの重要性を理解し、円滑に人間関係を構築していくことができる。	・グループ ディスカッション ・授業内レポート	20% 10%
総合的な学習経験と創造的思考力	・インターンシップにおける保育実践を通して、保育者の姿勢や子どもへのかかわりを多角的な視点で検証し、積極的に学習に取り組むことができる。	・授業内レポート ・インターンシップ記録	10% 30%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

・授業内レポート（30%） グループディスカッション（20%） インターンシップ記録（50%）

※ 授業への意欲・積極性、授業内レポート内容やグループ討議に対する意見発表、インターンシップ記録の視点等を総合的に評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回	インターンシップについて	インターンシップにおける記録の重要性 保育者としての自覚と責任	復習：記録作成 予習：実習における保育記録について
2回	子ども理解と記録について	対人援助職である保育者の姿勢と子どもへのかかわりの視点	復習：インターンシップ 記録のねらい設定 予習：地域活動について
3回	地域活動と子育て支援	地域活動（親子交流・ステージ発表・準備等）と子育て支援	復習：役割及びスケジュール内容確認 予習：ステージ演出方法の工夫と改善
4回	地域活動と子育て支援	子育て支援団体との交流と発展	復習：地域活動を通じた 学びの整理 予習：子どもを取り巻く社会の変化について考える
5回	子育ての現状と課題	子どもを取り巻く社会の変化 地域活動の振り返り	復習：子どもを取り巻く社会の変化について整理する 予習：様々な子育て支援活動に必要なサポートについて考える
6回	子育ての現状と課題	子どもを取り巻く社会の変化 地域や関連団体の子育て支援の実際	復習：レポート作成 予習：インターンシップ記録から保育実践事例を選出
7回	保育の展開と工夫	インターンシップにおける様々な保育のあり方及び展開	復習：協議内容を通して保育実践を検証する 予習：子どもの「主体性」を尊重した保育形態について調べておく
8回	保育の展開と工夫	世界の様々な特徴ある保育の理解 子どもの「主体性」をはぐくむ保育	復習：子どもの「主体性」をはぐくむ保育についてまとめる 予習：インターンシップ記録から保育実践事例選出
9回	保育内容における遊び	保育における遊びの意味 遊びの展開から見える子どもの育ちと主体性	復習：遊びの展開・事例考察 予習： インターンシップ記録から事例選出
10回	保育内容における遊び	遊びの役割 遊びの展開から見える子どもの育ちと主体性	復習：遊びの展開・事例考察 予習：インターンシップ記録から事例選出

11回	遊びの中で見られる「個」の育ち	遊びの構造の理解 遊びの様子からみる子どもの育ち	復習：遊びの構造の理解 予習：幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿に目を通しておく
12回	遊びの中で見られる集団における「個」の育ち	集団における子どもの「個」の育ちをとらえる視点	復習：事例を通して幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を把握する予習：子どもの発達過程の確認
13回	子どもの発達	保育における子どもの発達をとらえる視点	復習：子どもひとりひとりにふさわしい「発達」のまとめ（レポート） 予習：インターンシップ記録から事例選出
14回	子どもの発達	保育における子どもの発達をとらえる視点	復習：事例の整理 予習：子どもの発達過程の確認
15回	インターンシップの記録分析	実態把握と自己課題の抽出	復習：記録からみる子どもの姿の変化をとらえる 予習：インターンシップ記録の整理と自己課題の明確化

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：保育用語辞典及び関係資料を適宜活用 『保育実践と発達研究が会うとき まるごととらえる子どもと生活』 清水 民子・高橋 登・西川 由紀子・木下 孝司 著 かもがわ出版 参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末 に提出すること

講義科目名称：保育実践特別研究Ⅱ	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	1. インターンシップにおける保育実践・記録の分析を多角的な視点で行う。 2. 子ども一人ひとりに応じた適切な援助や細やかな配慮内容を学ぶ。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ記録を効果的に保育に活かすことができる。 ・ 子どもの発達を踏まえた様々な素材や形状の保育教材の工夫・配慮ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内レポート ・ 保育教材制作 	10% 20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとのかかわりを通して、子どもの姿を丁寧にとらえ、保育の創意・工夫を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ記録 	30%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会における保育者の役割についての理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼテーション 	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップにおける保育実践を丁寧に省察し、自身の保育観について発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ記録 	30%
出席			受験要件
			合計
			100%
補足事項			

・授業内レポート(10%) 保育教材制作(20%) プレゼンテーション(10%) インターンシップ記録(60%)
 ※ 授業への意欲・積極性、創意工夫のある保育教材制作と活用方法、インターンシップ記録の視点等を総合的に評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回	自己課題の確認	インターンシップにおける自己課題の確認	復習:前期インターンシップの記録の振り返り 予習:自己課題の抽出
2回	保育における行事について	行事の意義 子どもの育ちと園行事	復習:インターンシップ、記録から園行事を抽出 予習:行事の内容確認
3回	子どもと行事とのかわり	子どもの主体性を育む園行事のあり方	復習:行事における保育者の援助の理解 予習:年間行事予定の確認
4回	子どもと行事とのかわり	行事を通した子どもの育ちを考える	復習:テーマについてまとめる 予習:本科で作成した保育教材を準備する
5回	保育教材のデザイン	インターンシップや保育で活用できる教材の考案	復習:製作上の配慮点の見直し 予習:素材・形状等の改善点抽出
6回	保育教材のデザイン	インターンシップや保育で活用できる教材の制作	復習:製作上の留意点のまとめ 予習:製作に必要な材料準備
7回	保育教材のデザイン	インターンシップや保育で活用できる教材の製作	復習:子どもの年齢や発達に応じた保育教材 予習:手作り保育教材の活用と予想される子どもの姿
8回	保育教材の役割と効果	手作り保育教材を用いた保育実践	復習:保育教材の活用及び留意点のまとめ 予習:インターンシップ記録から保育に効果的な影響をもたらす事例の抽出
9回	子どもの生活とあそび	ゆとりのあるデイリープログラム 子どもの主体性を尊重した保育の流れ	復習:遊びの展開・事例考察 予習:デイリープログラム・1日の流れの再確認
10回	子どもの生活とあそび	子どもの主体性を尊重した保育の流れ	復習:見直す視点について考えをまとめる 予習:子どもにとってふさわしい生活と保育の流れを調べる
11回	子どもの生活とあそび	子どもを中心とした保育について	復習:事例の整理 予習:創作劇についての構想
12回	創作活動(劇あそび)	子どもの豊かでのびやかな表	復習:子どもの興味関心のある演目や発達

		現あそびについて	に応じた内容の検討 予習：創作活動に必要な準備物確認
13回	創作活動（劇あそび）	子どもの豊かでのびやかな表現あそびについて	復習：必要な準備物の製作 復習：保育における活用時の配慮事項の再考
14回	保育の評価	保育における子どもの育ち及び保育者の自己評価	復習：インターンシップ記録 1年間の振り返り 予習：インターンシップにおける保育目標の再確認
15回	インターンシップの記録分析	新たな課題の抽出	復習：インターンシップ記録内容の分類 予習：インターンシップ記録の効果・活用及び改善点の整理

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：保育用語辞典及び関係資料を適宜活用 『保育者の地平』 津守 真 著 ミネルヴァ書房 『子どもの教育の原理』 古橋 和夫 著 萌文書林 参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	・インターンシップ記録は毎月末 に提出すること ・裁縫道具（携帯タイプ可）の準備

講義科目名称：保育実践特別研究Ⅲ	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	演習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<p>1. 環境との多様な関わりを通して、子どもの心情・意欲・態度が育つことを踏まえ、乳幼児の「生きる力」を養う過程を学ぶ。</p> <p>2. 自身の保育観及び子ども観に対して問題意識を持ちながら討議を行う中で、保育の多様性を認めつつ子どもにふさわしい保育の方向性について積極的に検討する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	・ インターンシップ記録を活かした保育実践について、客観的視点をもって振り返ることができる。	・ インターンシップ記録	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	・ 子どもとのかかわりを通して、子どもの気づきや発見に共感し、子どもの中に育つものを理解することができる。	・ インターンシップ記録 ・ 保育教材制作	10% 10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	・ 地域社会における保育者の役割について理解を深めることができる。	・ インターンシップ記録 ・ 授業内レポート	10% 20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・ インターンシップにおける保育実践の省察を丁寧に行い、保育観を見出し発表することができる。	・ プレゼンテーション ・ インターンシップ記録	10% 20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
<p>・ 授業内レポート（20%） 保育教材制作（10%） プレゼンテーション（10%） インターンシップ記録（60%）</p> <p>※ 授業への意欲・積極性。保育の理解への探求心及びインターンシップ記録の継続的な取り組みを総合的に評価する。</p>			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回	記録の客観性と継続性	1年間のインターンシップ記録を基にしたフォーマット作成について	復習：フォーマット作成 予習：1年次のインターンシップ記録の振り返り
2回	年間計画・目標の設定	インターンシップの実態を踏まえた保育実践目標	復習：2年次のインターンシップ記録作成 予習：昨年度の子どもの姿を反映した目標設定
3回	地域社会との交流	地域活動の意義と役割(企画・計画)	復習：1年次参加した地域活動のまとめ 予習：イベント内容やスケジュール等の企画書作成
4回	地域社会との交流と連携	地域イベント交流(実践・反省・改善)	復習：体験活動を通して、地域イベントの意義を再考する 予習：子どもの知的好奇心を高める環境について調べる
5回	地域社会との交流と連携	地域イベント交流(次回イベント開催に向けた問題提議)	復習：地域イベント開催に向けた活動の提案内容や保育・教育関係機関の連携協働の必要性について整理する 予習：子どもの知的好奇心を高める環境について調べる
6回	心を育てる保育実践	知的好奇心の芽生え	復習：インターンシップ記録から子どもの知的な気づきに関する事例抽出 予習：愛着関係の構築に関する関連資料準備
7回	心を育てる保育実践	安全基地の広がり	復習：愛着関係の構築に関するまとめ 予習：製作活動内容のアイデア考案
8回	子どもの学びを育くむ保育環境	“遊び学ぶ”保育の1日と保育環境の工夫	復習：子どもの興味関心を引き出す環境構成の工夫の整理 予習：インターンシップ記録から環境を通じた保育実践事例の抽出
9回	子どもの学びを育くむ保育環境	科学する心を育てる環境を通じた保育実践	復習：インターンシップ記録から関係事例抽出 予習：保育環境構成における保育者の配慮点についてインターンシップ記録から抽出
10回	子どもの学びを育くむ	子どもの興味関心を引き出す保育環境の工夫と子どもの姿	復習：インターンシップ記録から関連事例の整理

	保育環境		予習： インターンシップ記録から事例の抽出
11回	インターンシップ記録の考察及び発表	保育者の援助による子どもの育ち	復習：インターンシップ記録から事例の整理 予習：インターンシップ記録から事例の抽出
12回	インターンシップ記録の考察及び発表	「子どもの困り感」に気づく保育者の視点	復習：インターンシップ記録から事例の整理 予習：パワーポイント作成準備
13回	保育のPDCAサイクル	インターンシップにおける自身の保育観と子どもの育ちに関する発表	復習：インターンシップ記録から保育実践の評価・改善 復習：インターンシップ記録の整理・検討
14回	保育のPDCAサイクル	インターンシップにおける自身の保育観と子どもの育ちに関する発表	復習：インターンシップ記録から保育実践の評価・改善 予習：インターンシップ記録の整理
15回	実践研究の考察と課題	インターンシップにおける保育実践を通した子ども及び保育者（自身）の変化のまとめ	復習：自己課題の抽出と改善策の探求 予習：インターンシップ記録の整理・提出
16回	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：保育用語辞典及び関係資料を適宜活用 『倉橋惣三 保育へのロマン』 新井 洵 フレーベル館 参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	・インターンシップ記録は毎月末 に提出すること ・裁縫道具（携帯タイプ可）の準備

講義科目名称：保育実践特別研究IV	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	選択	演習
担当教員				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の生活や遊びを中心とした様々な体験活動やゆとりある日課を理解し、乳幼児の「生きる力」が育つことを丁寧に捉える視点を持つ。 2. インターンシップを通して、保育の基本的理念・保育目標や目的の理解、子どもの力や姿を多面的に「みる」ことができる保育者の役割について再考する機会を持つ。 3. 2年間に亘るインターンシップ記録から、事例ごとに整理・分析する過程を通して、自己課題の明確化や自身の保育観を必要に応じて保育現場にフィードバックできることを目指す。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	・インターンシップ記録から、乳幼児期にふさわしい生活の重要性と保育者の適切な援助について理解することができる。	・インターンシップ記録のまとめ	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	・子どもとの関わりを通して、子どもの内面に心をよせ丁寧に向き合い、保育者として必要な姿勢や態度を身につけることができる。	・インターンシップ記録のまとめ ・創作活動内容	10% 20%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	・家庭及び地域社会との連携・協働や連続性の必要について理解できる。	・インターンシップ記録のまとめ	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・2年間に亘るインターンシップの保育実践記録をまとめ、プレゼンテーションができる。	・インターンシップ記録のまとめ ・プレゼンテーション	20% 10%
出席			受験要件
合計			100%

補足事項

・創作活動内容 (20%) プレゼンテーション (10%) インターンシップ記録 (70%)

※ 授業への意欲・積極性・探求心及びインターンシップ記録のまとめやプレゼンテーション力などを総合的に評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回	子どもの発達と 保育者のかかわり	・子どもの様々な発達の側面をとらえる	復習：2年前期インターンシップ記録の振り返り 予習：3歳未満児の発達のみちすじについて整理
2回	子どもの育ちにかかわる 保育者としての成長	・子どもの保育にあたる保育者の成長	復習：インターンシップ記録から保育者の援助に関する事例まとめ 予習：インターンシップ記録から子どもの心地よい生活の場面やトラブル場面の事例抽出
3回	保育における子どもの 「こころ」の理解	・子どもの「こころ」について	復習：関係資料準備 予習：インターンシップ記録から子どもの心地よい生活の場面やトラブル場面における子どもの心のゆらぎや心の育ちについて考えをまとめる
4回	保育における子どもの 「こころ」の理解	・子どもの「こころ」の理解	復習：インターンシップ記録から子どもの心、子どもの行動に関する事例抽出 予習：保育者に必要な資質や・能力について考えをまとめる
5回	保育の展開と 保育に携わる保育者の姿	・人的環境としての「保育者」の役割 ・人格形成の土台にかかわる 「保育者」の存在について	復習：インターンシップ記録から子どもの心、子どもの行動に関する事例抽出 予習：保育者に必要な資質や・能力について考えをまとめる
5回	望ましい保育者像とは	・人間性と専門性	復習：文献・論文を通して保育者に必要な資質・能力について再考する 予習：1年次参加した地域活動の経験をもとに、柔軟性のある新しいアイデアを取り入れたプランの考案
6回	創作活動（劇あそび）	・劇あそびの企画・演出・実践	復習：上演時期にも配慮した演出方法などの見直しを行う 予習：イベント内容やスケジュール等の運営プランの再案
7回	創作活動（劇あそび）	・劇あそびの企画・演出・実践	復習：アンケート等を参考に、次年度に向けた地域イベント内容改善策について他者と確認・共有する 予習：関連資料確認
8回	学びへのはじめの一步	・学びに向かう力とは	復習：関係資料の再確認 予習：幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の再確認
9回	学びへのはじめの一步	・充実した遊びの中から育まれる 「学ぶ力」	復習：3つの柱と子どもの中に育つ力との関連性をまとめる

			予習：関係資料を読み解く
10回	保・幼・小の連携 (なめらかな接続)	・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領	復習：インターンシップ記録から関係事例の抽出 予習：保育環境構成における保育者の配慮点についてインターンシップ記録から抽出
11回	インターンシップ記録の まとめと発表	・インターンシップにおける保育実践を通して、自身の保育観を整理する	復習：インターンシップ記録から事例の整理 予習：パワーポイント作成
12回	インターンシップの 学びのまとめ	・パワーポイント作成	復習：インターンシップ記録から事例の整理 予習：パワーポイント作成
13回	インターンシップの 学びのまとめ	・パワーポイント作成	復習：発表テーマ及び内容確認 予習：発表に向けた準備
14回	プレゼンテーション	・2年間のインターンシップを通して得られた知見や経験をプレゼンする ・他者の発表内容に触れ、様々な保育の課題を理解する	復習：プレゼン内容のまとめ 予習：2年間の学びの総括及び後輩へのメッセージ考案
15回	成果発表と 自己課題の明確化	・2年間のインターンシップ記録の整理及び保育者として新たな自己課題の明確化	復習：2年間のインターンシップ記録の整理と保育者としての自己課題を明確にする 予習：専攻科及びインターンシップ実践から習得したものを今後の保育現場で活かす
16回	定期試験	なし	

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：保育用語辞典及び関係資料を適宜活用</p> <p>『子どもの心 保育のこころ』 横山 文樹 著 同文書院</p> <p>『子どもの心の育ちをエピソードで描くー自己肯定感を育てるために』 鯨岡 峻 ミネルヴァ書房</p> <p>『 保育の場で子どもの心をどのように育むのか』 鯨岡 峻 著 ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・小学校学習指導要領</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	・インターンシップ記録は毎月末 に提出すること

講義科目名称：修了研究 I	授業コード：14161 14162 14163 14164
英文科目名称：	ナンバリング CB101

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	演習 クラス分け
担当教員				
中尾健一郎 戸田恵理子 座間味愛理 藤野正和				

授業概要	最初に研究の意義と進め方について講義し、各学生の研究テーマが設定された後にこの研究指導教員を決定する。以後、ゼミナール形式で研究を進めていく。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・自らの保育観および保育者観を見出す意思を持つことができる	研究に対する取り組み	20%
	・基本的な情報リテラシーを身につけている	研究に対する取り組み	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	・多視点の観点によって問題を客観的に考察することができる	研究に対する取り組み	20%
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)	・保育職の社会的役割や倫理について理解することができる	研究の成果	20%
総合的な学習経験と創造的思考力	・自ら追求すべき研究課題を見つけている	研究の成果	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーショ	修了研究の2年間の流れについて 学	予習：学科時代の保育実践

	ン①	位申請について	演習のレポート作成の振り返りをおこなう 復習：学位取得への意識を高める
2回目	情報リテラシー	研究室からの情報検索について	予習：ノートパソコンの準備をする 復習：情報検索の復習をおこなう
3回目	研究テーマの検討	担当教員の紹介(研究・教育内容等について) 教育学研究の関心事調査	予習：教育学研究の関心事についてまとめておく 復習：研究の具体的方法について構想する
4回目	研究①	問題状況の設定	予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
5回目	研究②	問題状況の設定	予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
6回目	研究③	問題点の絞り込み	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
7回目	研究④	問題点の絞り込み	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
8回目	研究⑤	文献検討	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する

			次の研究の課題について学習を進める
9回目	研究⑥	文献検討	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
10回目	研究⑦	文献検討	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
11回目	研究⑧	文献検討	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
12回目	研究⑨	問題解決の方針案	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
13回目	研究⑩	問題解決の方針案	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
14回目	研究⑪	研究テーマの明確化	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める

15 回目	研究⑫	研究テーマの明確化	予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める
-------	-----	-----------	--

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

講義科目名称：修了研究Ⅱ	授業コード：14161 14162 14163 14164
英文科目名称：	ナンバリング CB201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	演習 クラス分け
担当教員				
中尾健一郎 戸田恵理子 座間味愛理 藤野正和				

授業概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。学生各自が提起した幼児教育（保育）における問題・課題について、ゼミナールの担当教員が助言指導をおこないながら研究を進めていく。学年末には研究経過発表会を開催し、ここで研究経過の論文発表をおこないインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を受け、さらに2年次の研究へとつないでいく。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・保育・教育や社会問題に関する情報を適切に収集・分析し、問題意識を持つことができる	研究に対する取り組み	20%
	・研究方法と研究計画を立案することができる	研究の成果	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	・先行研究の論拠や方向性を理解し、自己課題を見つけることができる	研究の成果	20%
	・問題に対して論理的な仮説を立てることができる	研究の成果	20%
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)			
総合的な学習経験と創造的思考力	・自らの保育観および保育者観を形成するための総合的な学習を行い、多角的なスキルを身に付けている	研究に対する取り組み	20%
出席			受験要件
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	研究①	論文の章立て検討	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
2回目	研究②	論文の章立て検討	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
3回目	研究③	問題解決の実施・評価のプロセスの記述	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
4回目	研究④	問題解決の実施・評価のプロセスの記述	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
5回目	研究⑤	仮説の記述	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
6回目	研究⑥	仮説の記述	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう

			復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
7回目	研究⑦	論文全体の調整と経過的テーマの設定	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
8回目	研究⑧	学年末成果レポート(研究経過)の作成	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：文章を推敲する
9回目	研究⑨	学年末成果レポート(研究経過)の作成	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：研究の振り返りをおこなう
10回目	研究経過発表会の資料作成①	論文(研究経過レポート)集編集	予習：論文(研究経過レポート)の印刷原稿を作成する 復習：論文(研究経過レポート)をデータ保存する
11回目	研究経過発表会の資料作成②	パワーポイント作成	予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう
12回目	研究経過発表会の資料作成③	口頭発表練習	予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう
13回目	研究経過発表会の資料作成④	質疑を想定しながら補助資料の作成	予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう
14回目	研究経過発表会の実施①	発表会の運営と論文発表	予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を

			再確認する
15回目	研究経過発表会の実施②	発表会の運営と論文発表	予習：自身の発表について 振り返る 復習：助言指導について 振り返る

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

講義科目名称：修了研究Ⅲ	授業コード：34162 34163 34164
英文科目名称：	ナンバリング CB301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	演習 クラス分け
担当教員				
陣内敦 座間味愛 藤野正和				

授業概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。1年次末におこなった研究経過発表会においてインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を生かしながら、2年次の研究へとつないでいく。特に研究データの収集や研究保育の実施およびこの分析と考察を進めながら、研究内容に深さを求めていく。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	・自らの保育観および保育者観を確立し、学問的に検証することができる ・正しい文法によって文章を構成することができる	研究に対する取り組み	20%
		研究に対する取り組み	20%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)	・自らの研究内容を論理的に文章構成する力を身に着けている ・問題や課題について適切な方法で調査・分析する方法を習得し、研究内容を確認することができる	研究の成果	20%
		研究の成果	20%
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)			
総合的な学習経験と創造的思考力	・問題の仮説に対して適切な方法で実証する方法を習得している	研究の成果	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	2年次の研究の進め方について 学位申請の流れについて	予習：1年次の研究内容について振り返る 復習：研究の進め方と学位申請の方法について十分に理解する
2回目	研究①	研究の動機や目的の確認	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
3回目	研究②	研究の方法の確認	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
4回目	研究③	研究調査や研究保育の計画	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
5回目	研究④	研究データの収集や研究保育の実践	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
6回目	研究⑤	研究データの収集や研究保育の実践	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める
7回目	研究⑥	研究データの収集や研究保育の実践	予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員

			への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
8回目	研究⑦	研究データの収集や研究保育の実践	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
9回目	研究⑧	研究データの収集や研究保育の実践	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
10回目	研究⑨	研究データや研究保育の分析	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
11回目	研究⑩	研究データや研究保育の分析	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
12回目	研究⑪	研究データや研究保育の考察	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する 次の研究課題について学習 を進める
13回目	研究⑫	研究データや研究保育の考察	予習：これまでの研究課題 の成果をまとめ、担当教員 への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する

			次の研究課題について学習を進める
14回目	研究⑬	学期末の研究成果のまとめ	予習：自身の研究の成果について振り返る 復習：研究の補正について考える
15回目	学位申請手続き	単位修得状況等申告書の作成	予習：学科の単位修得科目及び専攻科の単位修得科目（見込みを含む）を整理する 復習：学位授与申請書作成の準備をおこなう

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

講義科目名称：修了研究IV	授業コード：44254 44255 44256
英文科目名称：	ナンバリング CB401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	演習 クラス分け
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	教育（保育）の環境にある様々な問題や課題の中から自らの研究テーマを探り、教育課程内の学習、自主的探究、教育（保育）現場におけるフィールドワークをもとに、研究をおこなっていく。この研究の結果を「学修成果レポート」として作成、学修の総まとめとしての修了研究発表会において口頭発表をおこなう。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	・自らの研究内容を、正しい文法によって論理的に文章構成する力を身につけている	「知識・理解」 【評価の観点】教育と保育の知識・理解の上に立つ学修の総まとめとしての研究をおこなっている。 【評価手段・方法】研究の過程	20%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	・問題や課題について適切な方法で調査・分析し、仮説に対して実証する方法を習得している ・研究した内容を適切な方法でプレゼンテーションし、より客観的な自己評価をもとに質疑に対して適切に回答することができる	「技能・表現」 【評価の観点】明解な論理と正しい文法によって研究のプレゼンテーションをおこなうとともに、研究発表の場に即した運営に貢献できる。 【評価手段・方法】研究発表会	20%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等）	・自らの教育観（保育観）を確立し、展望をみつけることができる	「関心・意欲・態度」 【評価の観点】学士（教育学）として社会に貢献する意識と展	

		望を持ち、研究者としての倫理性を備えている。 【評価手段・方法】自己点検票	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	・研究内容を学修成果として定着させ、社会に伝達すべき事項を適切な方法で意見表明することができる	「思考・判断」 【評価の観点】問題状況の設定と問題点の絞り込みをおこない、適切な問題解決の手法・手段を用いている。科学的・合理的な思考力が生かされた論理展開がなされている。 【評価手段・方法】学修成果レポート	50%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	本授業の履修計画①	学修の総まとめ科目履修計画書作成	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：履修計画書作成について必要な書類を補足する
2回目	本授業の履修計画②	学修の総まとめ科目履修計画書作成	予習：自分自身の4年間(短期大学の学科及び専攻科)の学修全体の省察をおこなう 復習：履修への意識を高める
3回目	学修成果レポート作成①	問題状況の設定と問題点の絞り込み	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する

			復習：文章を推敲する
4回目	学修成果レポート 作成①	文献検討・問題解決の方針立案	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する
5回目	学修成果レポート 作成①	研究課題の明確化	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する
6回目	学修成果レポート 作成①	論文の章立ての検討	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する
7回目	学修成果レポート 作成①	論文全体の調整と最終的なテーマ設定	予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する
8回目	学修成果レポート 作成①	論文の要旨作成	予習：完成した学修成果レポート（論文）を通読する 復習：文章を推敲する
9回目	修了研究発表会の資料作成①	論文（学修成果レポート）集編集	予習：完成した学修成果レポート（論文）の印刷原稿を作成する 復習：完成した学修成果レポート（論文）をデータ保存する
10回目	修了研究発表会の資料作成②	パワーポイント作成	予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう
11回目	修了研究発表会の資料作成③	口頭発表練習	予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう
12回目	修了研究発表会の資料作成④	質疑を想定しながら補助資料の作成	予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう
13回目	修了研究発表会の実施①	発表会の運営と論文発表	予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を再確認する

14回目	修了研究発表会の実施②	発表会の運営と論文発表	予習：自身の発表について振り返る 復習：助言指導について振り返る
15回目	現在の成果と今後の研究の展望	学生の自己点検票作成	予習：自身の学修の成果を振り返る 復習：修了後の研究の展望について構想をおこなう

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

講義科目名称：文書講読プレゼンスキル演習	授業コード：24161
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
安部恵美子				

授業概要	<p>本授業の目的は、専攻科の学生に課せられている学位論文を作成するための基本的アカデミックスキルである、研究論文の読み方、論旨や概要のまとめ方、発表資料作成の方法等を身につけることである。具体的には、まず、教員が提示する保育分野関連の文献を通読してその大意を掴む演習を行って論文形式の文章に慣れることから始める。次に、自分の興味関心に基づいた文献を収集して詳読した後、内容を要約し自らの意見をまとめたレポートを作成する。最後に、作成したレポートの発表を行い、教員を含む授業参加者全員から質問や意見を聴取し、応答を行って、自分の考えを発展させる、という流れで授業を展開する。文献要約とプレゼンテーションのスキルについては、適宜、テキストや教員が作成する資料等に沿って、項目別に説明していく。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	○文献講読のスキルを身につけている	4回目と7回目に提出したレポートの内容及びワークプリントの評価	20%
	○文献要約のスキルを身につけている		
	○文献の内容を適切に要約し、発表することが出来る	13～15回目の発表資料の内容の評価	50%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）	○他の学生の発表内容について、質問し、自分の意見を述べる事が出来る	授業の参加度やディスカッション時の積極性の評価	10%
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）	○効果的なプレゼン資料作成のための工夫ができる	14回15回目の発表資料の内容の評価	10%
総合的な学習経験と創造的思考力	○文献を使って自己の研究課題を見つけることが出来る	授業中の態度や文献探索意欲の評価	10%

出席	受験要件 3分の2以上の出席
合計	100%
補足事項	
語彙力・文章構成力・データ資料の活用力等の向上のための練習問題（ワークプリント）の提出が3回あります。	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	文献講読の方法1	文献の種類とクリティカル・リーディングの方法	
2回目	文献講読の方法2	文献の大意のつかみ方 サンプル文献を使用したワーク1	前回の授業時に配布された文献を読む
3回目	文献講読の方法3	文献の大意のつかみ方 サンプル文献を使用したワーク2 学生間での発表とディスカッション	サンプル文献の大意をまとめる
4回目	文献講読の方法4	文献の大意のつかみ方 サンプル文献を使用したワーク3 模範的要約と書き直し作業 レポート提出	自分が要約した文書の修正部分を見極めておく ワークプリントの提出（1回目）
5回目	文献講読の方法5	文献の大意のつかみ方 自己選択した文献を使用したワーク1 文献収集（図書館・ネット検索等）	文献を出来るだけたくさん集めて読み始めておく
6回目	文献講読の方法6	文献の大意のつかみ方 自己選択した文献を使用したワーク2 文献の選択・詳読	文献を出来るだけたくさん集めて読み始めておく
7回目	アカデミック・ライティングスキル1	事実と意見の相違とは 発表テーマの設定（計画書の提出）	発表する内容をあらかじめ決める ワークプリントの提出（2回目）
8回目	アカデミック・ライティングスキル2	明快な文書作成の方法 論文の構成とは 文章表現上達のためのワーク1	
9回目	アカデミック・ライティングスキル3	明快な文書作成の方法 分かりやすい文章表現のコツ・図表の利用	
10回目	アカデミック・	文献に関連する情報検索と整理の方法	

	ライティングスキル4	文章表現上達のためのワーク2	
11回目	アカデミック・ライティングスキル5	文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習1	ワークプリントの提出 (3回目)
12回目	アカデミック・ライティングスキル6	文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習2 文章表現上達のためのワーク3	
13回目	プレゼン&ディスカッション1	個別テーマの発表と全体討議	発表資料や機材の準備
14回目	プレゼン&ディスカッション2	個別テーマの発表と全体討議	発表資料や機材の準備
15回目	プレゼン&ディスカッション3	個別テーマの発表と全体討議	発表資料や機材の準備

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：特別にしません。学修の円滑な促進のために单元ごとの必要資料を教員で作成し、授業時まで配布します。 参考書：「よくわかる卒論の書き方」白川利明著 ミネルバ書房 「大学生からのスタディスキルズ 知へのステップ」学習技術研究会 くろしお出版
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	特に定めませんが、質問等がある場合は出来るだけ事前予約をお願いします
備考・メッセージ	期末試験は実施せず、知識については提出したレポートで評価します。毎回の授業への参加度については積極的に評価の対象とします。

講義科目名称：生涯スポーツ	授業コード：35261
英文科目名称：Lifelong sports	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2	1	選択	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	<p>①生涯スポーツの概念について理解する 自身の運動生活について評価する</p> <p>②トレッキングのポイントを理解する ネイチャーゲームポイントを理解する</p> <p>③体幹トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングの方法を理解する</p> <p>④ボルダリングについて理解する スポンジテニス・バドミントン・卓球のポイントを理解する ニューススポーツについて理解する</p> <p>⑤体力・運動能力テストを実施し評価する 診断結果に基づいて運動プログラムを作成する</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力・運動能力と運動生活を評価できるようになる 自然体験活動を体験し、その特性を理解できるようになる 体力トレーニングを実践し、その方法と効果について理解できるようになる 移動系、平衡系、操作系の運動とニューススポーツを体験し、その特性を理解できるようになる 自分の体力・運動能力や生活パターンに応じた運動プログラムを作成できるようになる 	授業への参加・態度 課題レポート及び発表	50% 50%
汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）			
態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任）			

等)			
総合的な学習経験 と創造的思考力			
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
課題レポート及び発表 50%、授業への参加・態度 50%の割合で評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	生涯スポーツについて	・生涯スポーツの概念について学び、これまでのスポーツライフを振り返る	予習：生涯スポーツの概念について調べる 復習：分析結果をもとにこれからのスポーツライフを考える
2 回目	体力・運動能力診断の実施と診断結果の分析	・体力・運動能力診断の結果をもとに分析し、自己の運動生活を振り返る	予習：自己の体力・運動能力の現状を理解する 復習：体力診断の結果を振り返り、現在の運動生活を見直す
3 回目	自然体験活動の実践	・ネイチャーゲームを体験し、その方法について学ぶ	予習：ネイチャーゲームについて調べる 復習：ネイチャーゲームの体験をもとに自己の運動生活を見直す
4 回目	移動系の運動の実践	・トレッキングを体験し、その方法について学ぶ	予習：身近にトレッキングができるところがないか探してみる 復習：トレッキングの体験をもとに自己の運動生活を見直す
5 回目	平衡系の運動の実践	・ボルダリングを体験し、その方法について学ぶ	予習：ボルダリングのやり方について調べる 復習：ボルダリングの体験をもとに、自己の運動生活を見直す

6 回目	操作系の運動の実践	・バドミントン、卓球を体験し、その方法について学ぶ	予習：バドミントン、卓球のやり方について調べる 復習：バドミントン、卓球の体験をもとに、自己の運動生活を見直す
7 回目	ニュースポーツの実践①	・ペタンクを体験し、その方法について学ぶ	予習：ペタンクのルールについて調べる 復習：ペタンクの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
8 回目	ニュースポーツの実践②	・スポンジテニスを体験し、その方法について学ぶ	予習：スポンジテニスのルールについて調べる 復習：スポンジテニスの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
9 回目	ニュースポーツの実践③	・ターゲットバードゴルフを体験し、その方法について学ぶ	予習：ターゲットバードゴルフのルールについて調べる 復習：ターゲットバードゴルフの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
10 回目	ニュースポーツの実践④	・インディアカを体験し、その方法について学ぶ	予習：インディアカのルールについて調べる 復習：インディアカの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
11 回目	ニュースポーツの実践⑤	・ソフトバレーボールを体験し、その方法について学ぶ	予習：ソフトバレーボールのルールについて調べる 復習：ソフトバレーボールの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
12 回目	ニュースポーツの実践⑥	・フットサルを体験し、その方法について学ぶ	予習：フットサルのルールについて調べる 復習：フットサルの体験をもとに、自己の運動生活を見直す
13 回目	運動生活調査と体力・運動能力診断	・運動生活調査と体力・運動能力診断を実施し、初回の結果と比較して分析	予習：前回の運動生活と体力診断の結果を振り返る

	の実施	する	復習：調査結果をもとに自己の運動生活を見直す
14 回目	運動プログラムの作成	・前回の調査結果を踏まえて、運動生活を豊かにするアクションプログラムを作成する	予習：授業を通して体験した運動やスポーツの方法について振り返る 復習：プログラムをまとめ、発表の準備をする
15 回目	運動プログラムの発表	・作成したプログラムを発表し、相互評価を行う	予習：発表の準備をする 復習：プログラムを実践できるように生活を見直す

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布する 参考書：観るまえに読む大修館スポーツルール 2020. 大修館書店編集部 編
履修条件	
履修上の注意	実技の際は運動にふさわしい服装を準備すること
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	普段の生活の中で、運動に関心を持ち意識しておくこと

講義科目名称：芸術論	授業コード：55262
英文科目名称：	ナンバリング BS403

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	選択	講義 単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	芸術学・西洋美術史についての講義と、海岸アートや陶芸体験、美術館企画展鑑賞や展覧会自主企画の演習活動を併せながら授業を進めていく。主観と客観を認識し、自らの感性を磨くことと感性教育について考察する力を培っていく。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
知識・専門技術・理解(文化、社会、自然、等)	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の領域と意義を考え、芸術と人間の関係を理解することができる ・世界の美術史を学び、美術に関する見識を身につけることができる 	レポート	40%
汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)			
態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間のかかわりの中から、芸術をとらえることができる ・人間の手と心の温かさから、芸術をとらえることができる 	提出作品	40%
総合的な学習経験と創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞によって社会人としての感性を磨くことができる 	学修の取り組み	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
------	-----	-------	-------

1回目	オリエンテーション	「陣内敦絵画展」を鑑賞する	予習：自分にとっての芸術のとらえ方を振り返る 復習：担当教員の芸術活動についてレポートする
2回目	芸術家の生涯①	芸術家Aの伝記 読み語り	予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える
3回目	芸術家の生涯②	芸術家Bの伝記 読み語り	予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える
4回目	芸術家の生涯③	芸術家Cの伝記 読み語り	予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える
5回目	自然と芸術①	海岸アート体験	予習：自分にとっての自然、自分にとっての芸術について考える 復習：自然と人間の関わりを感じる
6回目	自然と芸術①	海岸アート体験	予習：自然へ溶け込む感覚を確認する 復習：海岸アートの振り返りをおこなう
7回目	展覧会見学①	展覧会の選択	予習：鑑賞したい展覧会を検索する 復習：この展覧会で発表される芸術の内容について予備知識を得る
8回目	展覧会見学②	展覧会鑑賞	予習：展覧会で特にどこを注目すべきかを考える 復習：疑問点や興味が湧いた内容を学芸員や教員に質問する
9回目	展覧会見学③	展覧会鑑賞	予習：自分なりの鑑賞の観点を持つ 復習：展覧会の内容について

			てレポートする
10回目	美術史①	美術史ビデオ鑑賞	予習：西洋美術史について既に知り得ている内容を整理する 復習：歴史が伝える内容を考える
11回目	美術史②	美術史ビデオ鑑賞	予習：歴史を学ぶ楽しさを感じる 復習：歴史が伝える内容を考える
12回目	心と芸術①	陶芸体験	予習：作りたい陶器を考える 復習：陶器の温かさを感じる
13回目	心と芸術②	陶芸体験	予習：人間の手と心の温かさについて考える 復習：心をこめる大切さを確認する
14回目	心と芸術③	陶芸体験	予習：人間の無垢な表現を求めていく 復習：陶芸を通して心と芸術について考える
15回目	自分にとっての芸術	レポート作成	予習：自分にとっての芸術とのかかわり方について考える 復習：人生を豊かにするための芸術について考える

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：テーマごとに、必要な参考資料を提示。 参考書：『西洋美術史 東洋美術史 日本美術史』 美術出版社 『おはなし名画シリーズ』 博雅堂出版 他
履修条件	
履修上の注意	

オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	レポート提出の期限を厳守し、学士としての学力水準を確認できる内容を求める。